

文化に関する県民アンケート調査結果 (概要版)

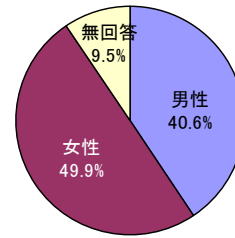
I 調査の概要

- | | |
|------------|--|
| 1 調査の目的 | 富山県における文化行政を推進するため、県民の文化に関する意識や活動状況、文化振興施策に対するニーズを調査する。 |
| 2 調査項目 | (1) 文化に関する意識に関すること
(2) 文化活動の状況に関すること
(3) 地域の民俗芸能に関すること
(4) 文化の振興のために力を入れること
(5) ふるさと文学に関すること |
| 3 調査対象 | (1) 調査地域 富山県全域
(2) 対象者 満20歳以上79歳までの男女
(3) 標本数 1,200人
(4) 抽出方法 無作為抽出法 |
| 4 調査時期 | 平成22年8月 |
| 5 調査方法 | 郵送調査 |
| 6 調査実施委託期間 | 株式会社ジェック経営コンサルタント
委託内容：アンケートの発送・回収・集計 |
| 7 有効回答数 | 571人(47.6%) |

8 回答者の構成

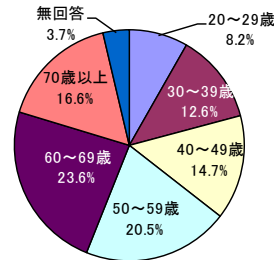
(1) 性別

性別	標本数	回収数	回収率	構成比
男性	600	232	38.7%	40.6%
女性	600	285	47.5%	49.9%
無回答		54		9.5%
サンプル数	1200	571	47.6%	100.0%



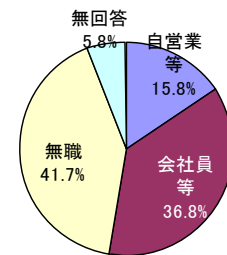
(2) 年齢別

年齢	標本数	回収数	回収率	構成比
20～29歳	146	47	32.2%	8.2%
30～39歳	223	72	32.3%	12.6%
40～49歳	191	84	44.0%	14.7%
50～59歳	214	117	54.7%	20.5%
60～69歳	249	135	54.2%	23.6%
70歳以上	175	95	54.3%	16.6%
年齢問わず	2			
無回答		21		3.7%
サンプル数	1200	571	47.6%	100.0%



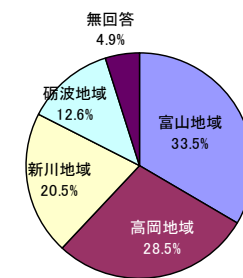
(3) 職業別

職業	回収数	構成比
自営業・家族従事者		
農林業など	26	4.6%
商工・サービス・自由業など	64	11.2%
会社員・公務員		
管理職	35	6.1%
事務・技術・営業職など	128	22.4%
労務・技能職など	47	8.2%
無職		
主婦	119	20.8%
学生	9	1.6%
その他	110	19.3%
無回答	33	5.8%
サンプル数	571	100.0%



(4) 地域別

地域	標本数	回収数	回収率	構成比
富山地域	464	191	41.2%	33.5%
高岡地域	356	163	45.8%	28.5%
新川地域	234	117	50.0%	20.5%
砺波地域	146	72	49.3%	12.6%
無回答		28		4.9%
サンプル数	1200	571	47.6%	100.0%



9 地域の分類

富山県内の市町村を、市または町を単位として、次の4地域に分類した。

富山地域＝富山市

高岡地域＝高岡市、氷見市、射水市

新川地域＝魚津市、滑川市、黒部市、舟橋村、上市町、立山町、入善町、朝日町

砺波地域＝砺波市、小矢部市、南砺市

II 調査結果の概要

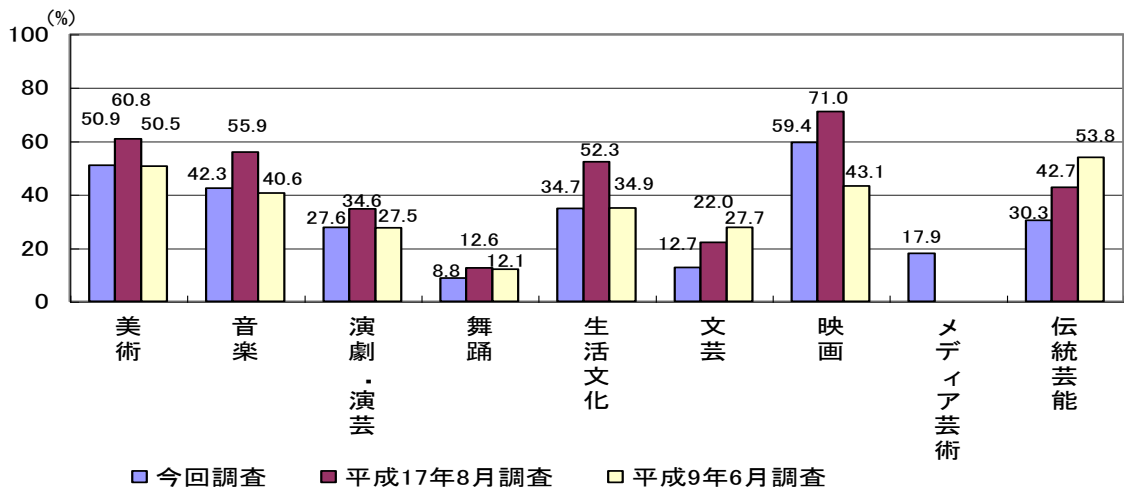
問1 この1年間に、公演や展覧会などで鑑賞した文化は、どの分野で、何回出かけましたか。次にあげる分野について、それぞれ1つ選んでください。

この1年間に、美術や音楽、演劇・演芸などの催しに出かけたことがあると答えた人の割合は89.8%となっている。なお、全国調査では鑑賞したことがあると答えた人の割合は62.8%であり、本県は、かなり高くなっている。

他方、出かけた分野を見ると、「映画」(59.4%)と回答した人の割合がもっとも高く、次に「美術」(50.9%)、「音楽」(42.3%)、「生活文化」(34.7%)、「伝統芸能」(30.3%)、「演劇・演芸」(27.6%)、「メディア芸術」(17.9%)、「文芸」(12.7%)、「舞踊」(8.8%)の順になっている。

前回調査と比較すると、出かけたことがあると答えた人は、すべての分野で低下し回数も少なくなっている。これは、新型インフルエンザの流行や、世界同時不況の影響ではないかと推測される。

文化に関する催しに出かけた状況



(参考)全国調査		文化芸術の直接鑑賞経験											(複数回答)	
文化に関する世論調査(平成21年11月調査内閣府)	該当者数	鑑賞したことがある(小計)	映画(アニメーションを除く)	音楽	美術	歴史的な建物や遺跡	演劇	伝統芸能	芸能	舞踊	メディア芸術(映画を除く)	その他	鑑賞したものは	わからない
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
	1,853	62.8	37.2	24.2	24.2	22.6	10.5	5.3	4.5	4.3	2.2	0.2	36.9	0.3

(上段：今回調査、下段：前回(平成17年8月調査))

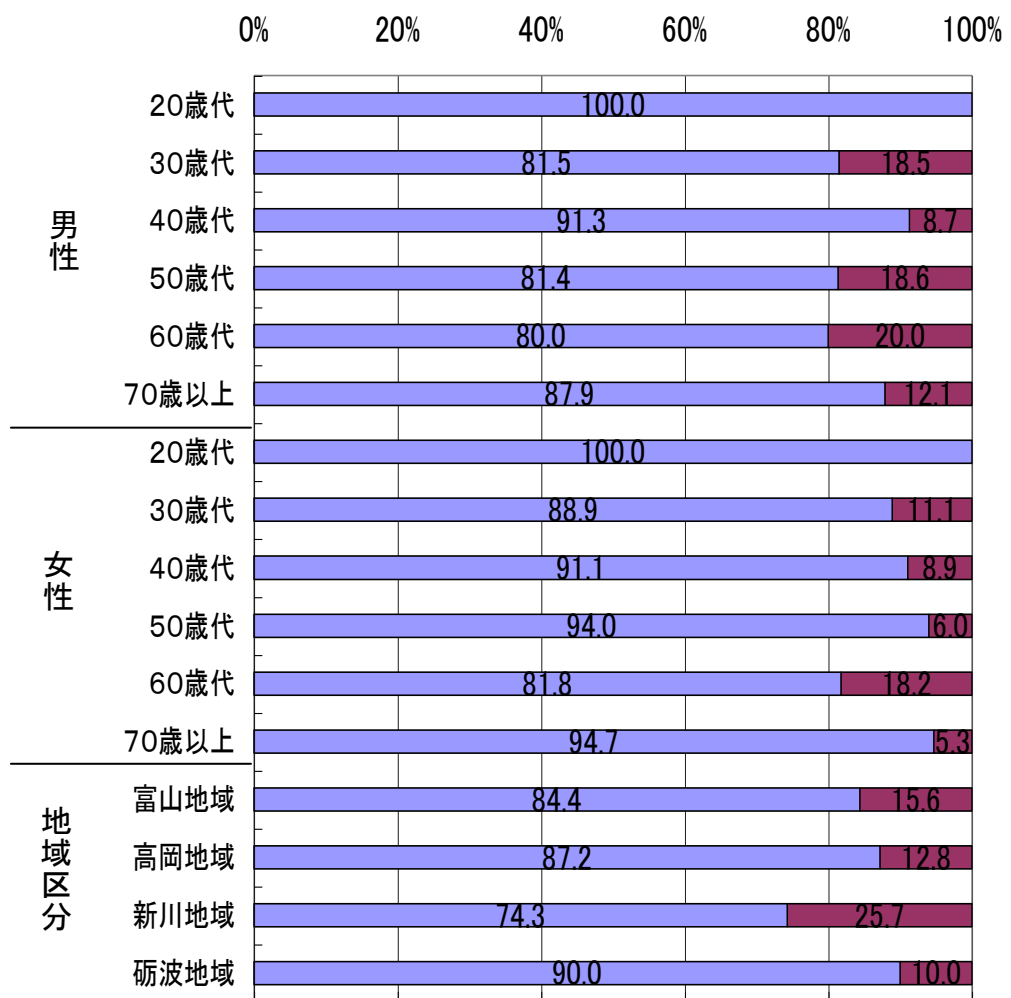
	出 か け な い %	出 か け た こ と が あ る (小計) %	年 1 ～ 3 回	年 4 ～ 6 回 程 度	月 1 ～ 3 回	月 4 ～ 6 回 程 度	そ れ 以 上	賞 * 全 国 調 査 で 「 鑑 賞 し た こ と が あ る 」 と 答 え た 人 %
			%	%	%	%	%	
(1)～(10)までの催しのい れかに出かけたことがある	10.2% 10.1%	89.8% 89.9%						62.8
(1)美術	49.1% 39.2%	50.9% 60.8%	41.6% 42.9%	8.0% 12.5%	0.9% 4.6%	0.2% 0.4%	0.2% 0.5%	24.2
(2)音楽	57.7% 44.1%	42.3% 55.9%	38.7% 47.3%	3.7% 6.4%	— 1.7%	— 0.6%	— —	24.2
(3)演劇・演芸	72.4% 65.4%	27.6% 34.6%	24.2% 29.1%	2.7% 4.7%	0.2% 0.4%	0.2% 0.2%	0.2% —	10.5
(4)舞踊	91.2% 87.4%	8.8% 12.6%	7.1% 11.0%	1.0% 1.4%	0.5% —	— 0.2%	0.2% —	4.3
(5)生活文化	65.3% 47.7%	34.7% 52.3%	27.5% 36.6%	3.0% 10.0%	3.2% 4.2%	0.5% 0.8%	0.5% 0.8%	
(6)文芸	87.3% 78.0%	12.7% 22.0%	8.3% 14.0%	2.2% 3.0%	1.5% 3.9%	0.2% 0.2%	0.5% 0.8%	
(7)映画	40.6% 29.0%	59.4% 71.0%	39.7% 41.3%	14.7% 20.1%	4.5% 7.1%	0.2% 1.3%	0.2% 1.3%	37.2
(8)メディア芸術	82.1% 前回項目なし	17.9% —	14.0% —	2.7% —	0.5% —	0.5% —	0.2% —	2.2
(9)伝統芸能	69.7% 57.3%	30.3% 42.7%	25.3% 35.2%	3.6% 6.2%	1.0% 1.2%	0.2% —	0.2% 0.2%	5.3
(10)その他	89.7% 81.8%	10.3% 18.2%	6.9% 12.7%	2.1% 1.8%	— 2.7%	— —	1.4% 0.9%	0.2

出かけていない状況

	(1) 美術	(2) 音楽	(3) 演劇・ 演芸	(4) 舞踊	(5) 生活文化	(6) 文芸	(7) 映画	(8) メディア 芸術	(9) 伝統 芸能	(10) その他
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	49.1%	57.7%	72.4%	91.2%	65.3%	87.3%	40.6%	82.1%	69.7%	89.7%
男性	58.6%	66.5%	78.1%	97.3%	76.3%	88.8%	48.3%	82.8%	75.3%	90.8%
女性	41.4%	50.4%	67.8%	86.1%	56.3%	86.1%	34.3%	81.5%	65.1%	88.4%
男性	20歳代	66.7%	76.9%	85.7%	100.0%	85.7%	92.9%	33.3%	64.3%	85.7%
	30歳代	77.4%	60.6%	83.9%	100.0%	90.0%	100.0%	56.3%	80.6%	87.1%
	40歳代	62.1%	69.0%	78.6%	96.3%	75.0%	85.7%	48.3%	70.4%	77.8%
	50歳代	57.1%	66.7%	82.6%	100.0%	80.9%	88.6%	44.7%	88.9%	75.0%
	60歳代	52.9%	68.8%	73.9%	93.5%	64.0%	85.1%	47.1%	86.4%	63.8%
	70歳以上	42.9%	61.5%	67.7%	95.8%	72.0%	84.0%	55.6%	92.0%	74.1%
女性	20歳代	51.7%	50.0%	77.8%	89.3%	74.1%	78.6%	26.7%	62.1%	76.9%
	30歳代	48.5%	53.1%	66.7%	96.9%	63.6%	96.8%	34.4%	87.1%	83.9%
	40歳代	53.1%	57.1%	74.0%	93.6%	74.5%	93.8%	34.7%	75.0%	62.5%
	50歳代	43.6%	51.9%	72.5%	91.8%	54.9%	91.7%	29.6%	87.5%	77.6%
	60歳代	32.1%	51.0%	64.6%	72.1%	41.5%	81.4%	36.5%	88.6%	49.0%
	70歳以上	16.7%	32.1%	46.7%	66.7%	29.6%	64.0%	48.0%	86.4%	42.3%

性・年代別に見ると、催しのいずれかに出かけたことがあると答えた人の割合は、男女とも20歳代では100%となっており、どの年代においても80%以上と高いが、その中では、女性では、40歳代、50歳代、70歳以上が、男性では、40歳代がそれぞれ90%台となっている。

なお、地域別に見ると、「出かけた」と答えた人の割合が砺波地域（90.0%）で高く、次いで高岡地域（87.2%）、富山地域（84.4%）、新川地域（74.3%）となっている。



□ ある ■ ない

問2(1) 公演や展覧会など文化の鑑賞に出かけるうえで、支障となっていることは何ですか。(出かける時間がない方は、その理由は何ですか。)次の中から2つまで選んでください。

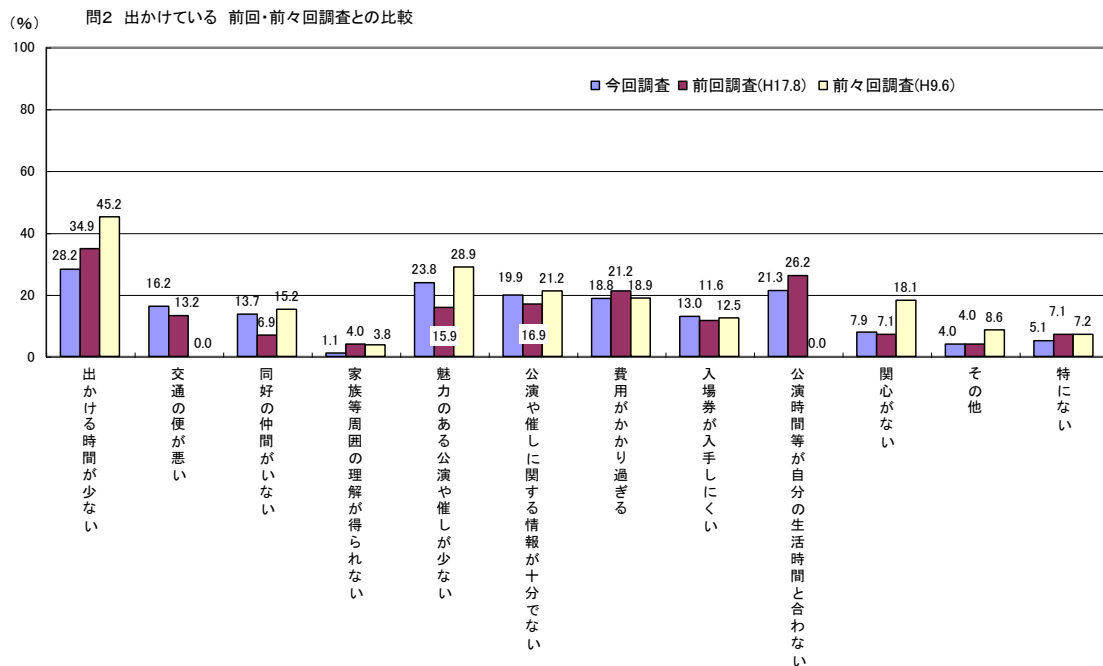
① 出かけている方の支障理由

公演や展覧会など文化の鑑賞に出かけている方が出かけるうえでの支障としては、「出かける時間が少ない」(28.2%)と回答した人の割合が最も高く、次に「魅力のある公演や催しが少ない」(23.8%)、「公演時間等が自分の生活時間と合わない」(21.3%)といった、時間に関するものが多い。

なお、前回調査では、「出かける時間が少ない」(34.9%)と回答した人の割合が最も高く、次に「公演時間等が自分の生活時間と合わない」(26.2%)、「費用がかかり過ぎる」(21.2%)といった、時間と費用に関するものがそれぞれ20%を超えている。

他方、性別に見ると「交通の便が悪い」(男性10.2%、女性20.1%、男女差9.9ポイント)と回答した人の割合が男女で最も離れている。

年代別に見ると、男女とも40歳代で、「出かける時間が少ない」(男性53.3%、女性54.2%)と答えた人の割合が高くなっている。



② 出かけない方の支障理由

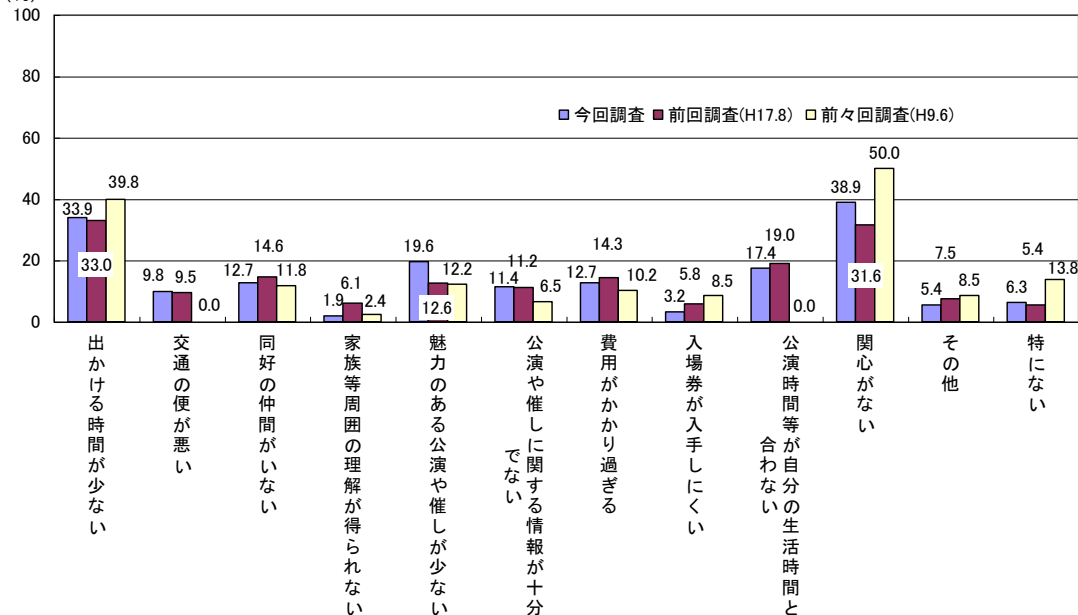
公演や展覧会など文化の鑑賞に出かけない方の理由としては、「関心がない」(38.9%)と回答した人の割合が最も高く、次に「出かける時間が少ない」(33.9%)、「魅力のある公演や催しが少ない」(19.6%)が高くなっている。出かけている方の支障理由と比べると「出かける時間が少ない」、「魅力のある公演や催しが少ない」は同様に高く、出かけない方は「関心がない」の割合が高い。

なお、前回調査では「出かける時間が少ない」(33.0%)と回答した人の割合が最も高く、次に「関心がない」(31.6%)、「公演時間等が自分の生活時間と合わない」(19.0%)が高くなっている。前回調査の出かけている方の支障理由と比べると「出かける時間が少ない」、「公演時間等が自分の生活時間と合わない」は同様に高く、出かけない方は「関心がない」の割合が高い。

他方、性別に見ると「魅力のある公演や催しが少ない」(男性 24.8%、女性 15.0%、男女差 9.8 ポイント)と回答した人の割合が男女で最も離れている。

年代別に見ると、男性の 20 歳代で、「魅力のある公演や催しが少ない」(41.7%)、「関心がない」(66.7%)と答えた人の割合が高くなっており、女性の 70 歳以上で、「交通の便が悪い」(29.4%)と答えた人の割合が高くなっている。

問2 出かけない 前回・前々回調査との比較 (%)



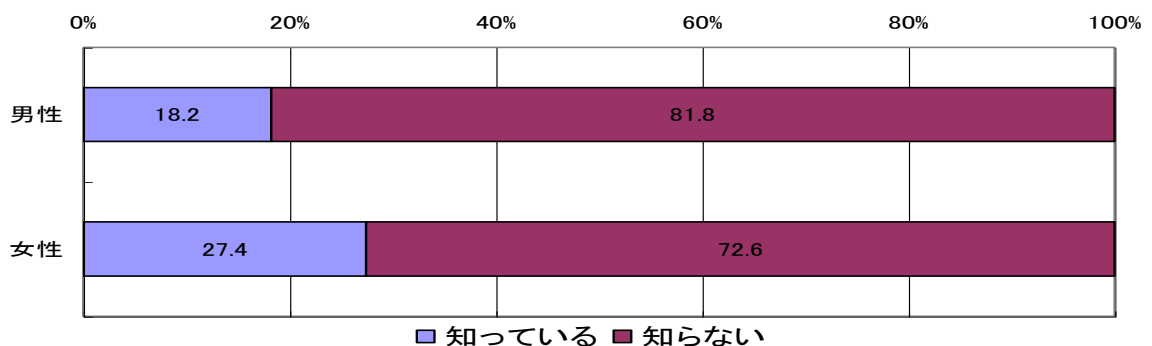
問3(1) 県立の美術館・博物館では、平成17年4月から、小・中・高等学校の児童生徒や障害者の方の観覧料が通年無料となりましたが、この取り組みを、あなたは知っていますか。

県立の美術館・博物館では、平成17年4月から、小・中・高等学校の児童生徒や障害者の方の観覧料が通年無料となったが、この取り組みを知っているかたずねたところ、「知っている」と回答した人の割合が23.3%、「知らない」を答えた人の割合が76.7%となっている。

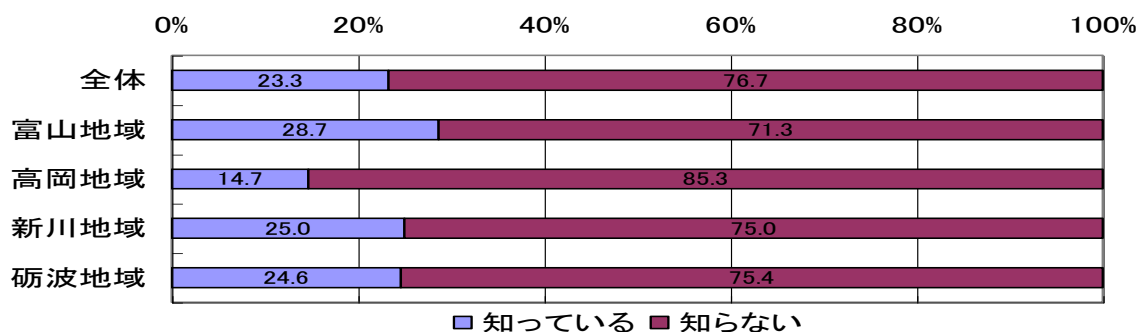
なお、性別に見ると「知っている」人の割合は女性（27.4%）の方が、男性（18.2%）よりも高くなっている。

地域別に見ると、「知っている」人の割合は、富山地域（28.7%）で最も高く、新川地域（25.0%）、砺波地域（24.6%）、高岡地域（14.7%）の順となっている。「知らない」とする人の割合は高岡地域（85.3%）で最も高くなっている。

問3（1） 性別による「知っている」状況



問3（1） 地域別による「知っている」状況

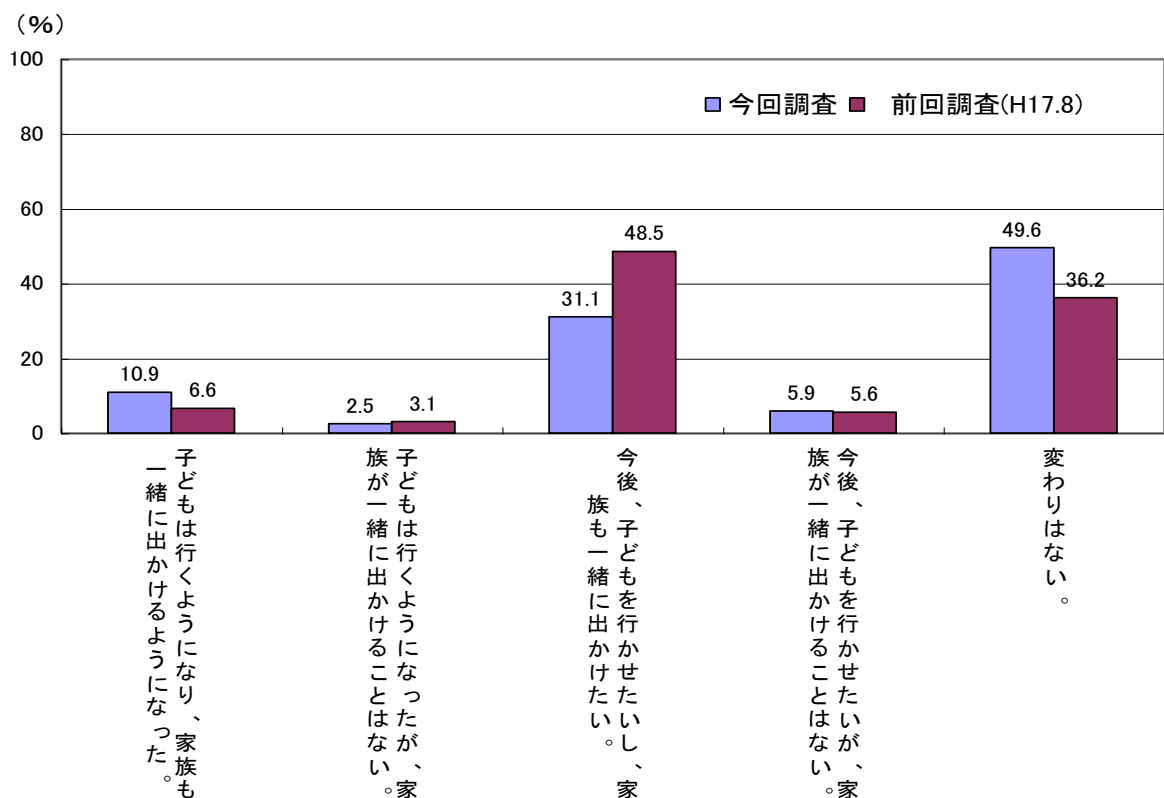


問 3(2) 児童生徒のお子さんをお持ちの方におたずねします。県立美術館等の通年無料化後、お子さんやご家族の方が美術館等へこれまでより行くようになりましたか。次の中から1つ選んでください。

児童生徒の文化施設の通年無料化後の観覧状況については、「変わりはない」と回答した人の割合が約半数にあたる49.6%と最も高く、次に「今後、子どもを行かせたいし、家族も一緒に出かけたい」(31.1%)、「子どもは行くようになり、家族も一緒に出かけるようになった」(10.9%)、「今後、子どもを行かせたいが、家族が一緒に出かけることはない」(5.9%)、「子どもは行くようになったが、家族が一緒に出かけることはない」(2.5%)の順となっている。

なお、地域別に見ると、「変わりはない」と回答した人の割合が高いのは新川地域(61.9%)となっており、「今後、子どもを行かせたいし、家族も一緒に出かけたい」と回答した人の割合が高いのは富山地域(44.2%)となっている。

問 3 (2) 児童生徒の文化施設の通年無料化後の観覧状況 前回調査との比較



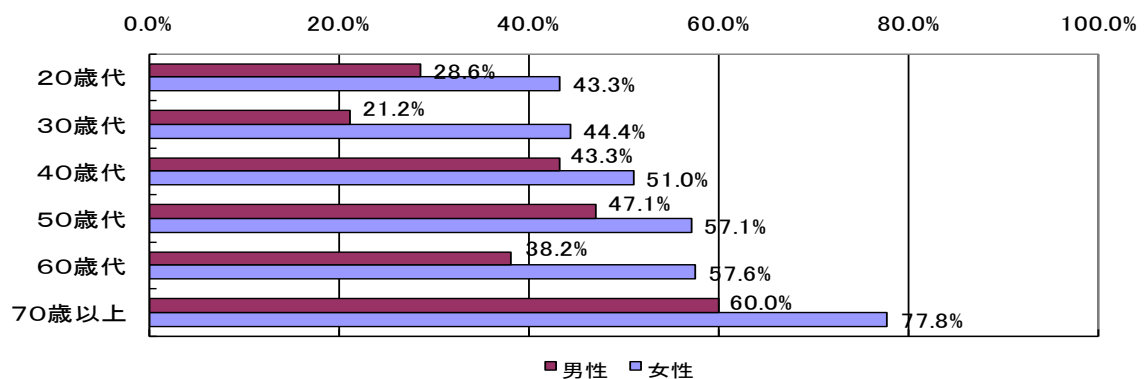
問 3(3) あなたは、この1年間に県内の美術館、博物館へ何回くらい出かけましたか。

美術館、博物館の来館回数については、「出かけない」人の割合が50.8%、「出かけたことがある」人の割合が49.2%となっており、全国調査では、「行った」人の割合が42.2%、「行かなかった」人の割合が57.5%となっている。

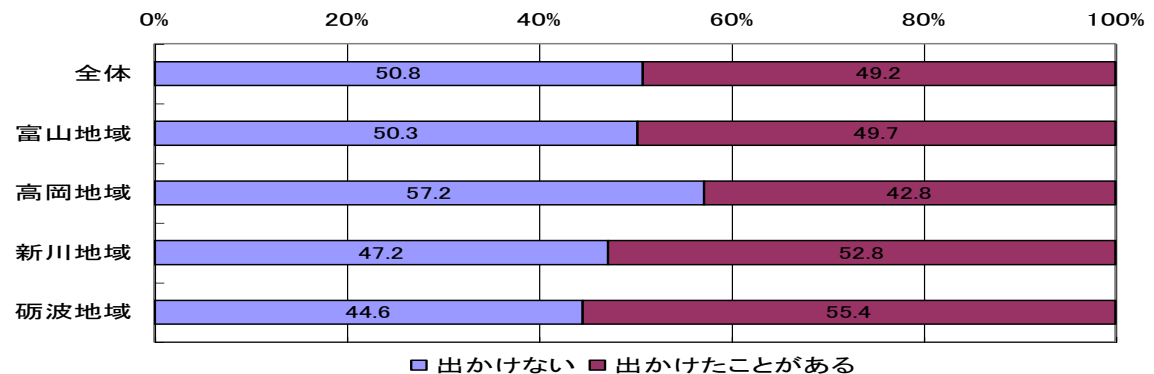
なお、「出かけたことがある」人の中で、「年1~3回」と回答した人の割合が最も高く、年代別に見ると、男女ともに70歳以上（男性45.7%、女性66.7%）で最も高い。

地域別に見ると、「出かけたことがある」人の割合は、砺波地域（55.4%）で最も高く、次に新川地域（52.8%）、富山地域（49.7%）、高岡地域（42.8%）の順となっている。「出かけない」とする人の割合は高岡地域（57.2%）で最も高くなっている。

問 3（3） 年代別による「出かけたことがある」状況



問 3（3） 地域別による「出かけたことがある」状況

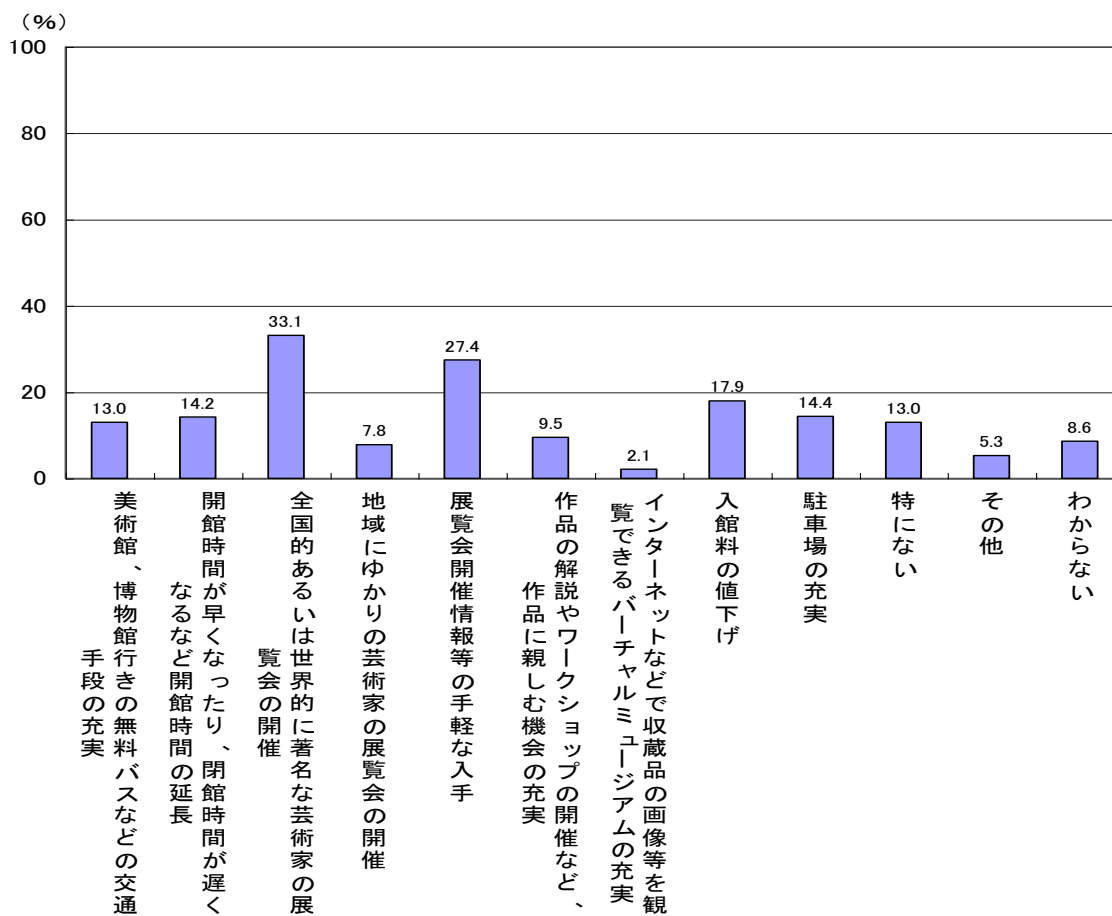


問 3(4) あなたは、どうなれば美術館・博物館にもっと出かけやすくなると思いますか。次の中から2つまで選んでください。

どうなれば美術館・博物館にもっと出かけやすくなるかたずねたところ、「全国のあるいは世界的に著名な芸術家の展覧会の開催」と回答した人の割合が33.1%と最も高く、次に「展覧会開催情報等の手軽な入手」(27.4%)、「入館料の値下げ」(17.9%)が高くなっている。

なお、全国調査では、「住んでいる地域やその近くに美術館・博物館ができる(増える)」(37.0%)と回答した人の割合が最も高く、次に「入場料が安くなる」(35.7%)、「展覧会の開催に関する情報がわかりやすく提供される」(24.7%)、「全国のあるいは世界的に著名な芸術家の展覧会が開催される」(18.9%)の順となっている。

問 3 (4) どうなれば美術館・博物館にもっと出かけやすくなるか



問 3(5) 県立の美術館、博物館等の入館料についてどのように思いますか。次の中から 1 つ選んでください。

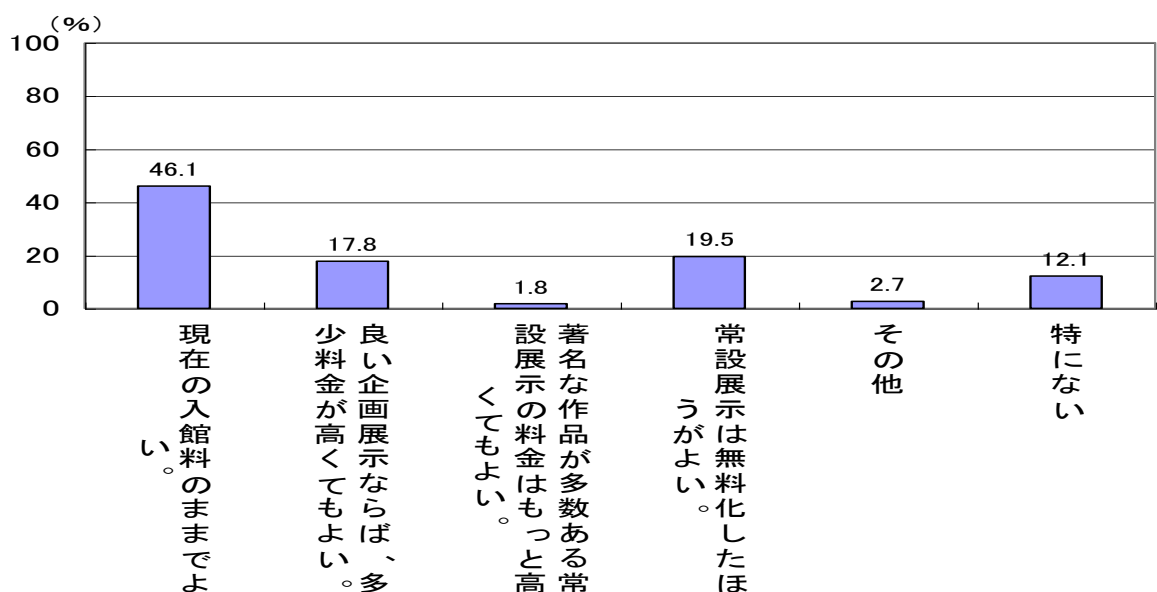
〔参考〕 県立近代美術館の入館料 常設展示：200 円（一般）
 企画展示：300 円～1,000 円（一般）
 常設展示の全国平均は 295 円であり、平均より安い方である。〕

県立の美術館・博物館の入館料についてたずねたところ、「現在の入館料のままでよい」と回答した人の割合が 46.1%と最も高く、次に「常設展示は無料化した方がよい」(19.5%)、「良い企画展示ならば、多少料金が高くてもよい」(17.8%)が高くなっている。

なお、性別に見ると「現在の入館料のままでよい」(男性 43.0%、女性 48.7%、男女差 5.7 ポイント)と回答した人の割合が男女で最も離れている。

年代別に見ると、「現在の入館料のままでよい」と回答した人の割合は男女とも 70 歳以上(男性 58.3%、女性 52.9%)で高くなっており、「良い企画展示ならば、多少料金が高くてもよい」と回答した人の割合が男女とも 20 歳代(男性 26.7%、女性 20.0%)で高くなっている。

問3(5) 県立の美術館、博物館の入館料について

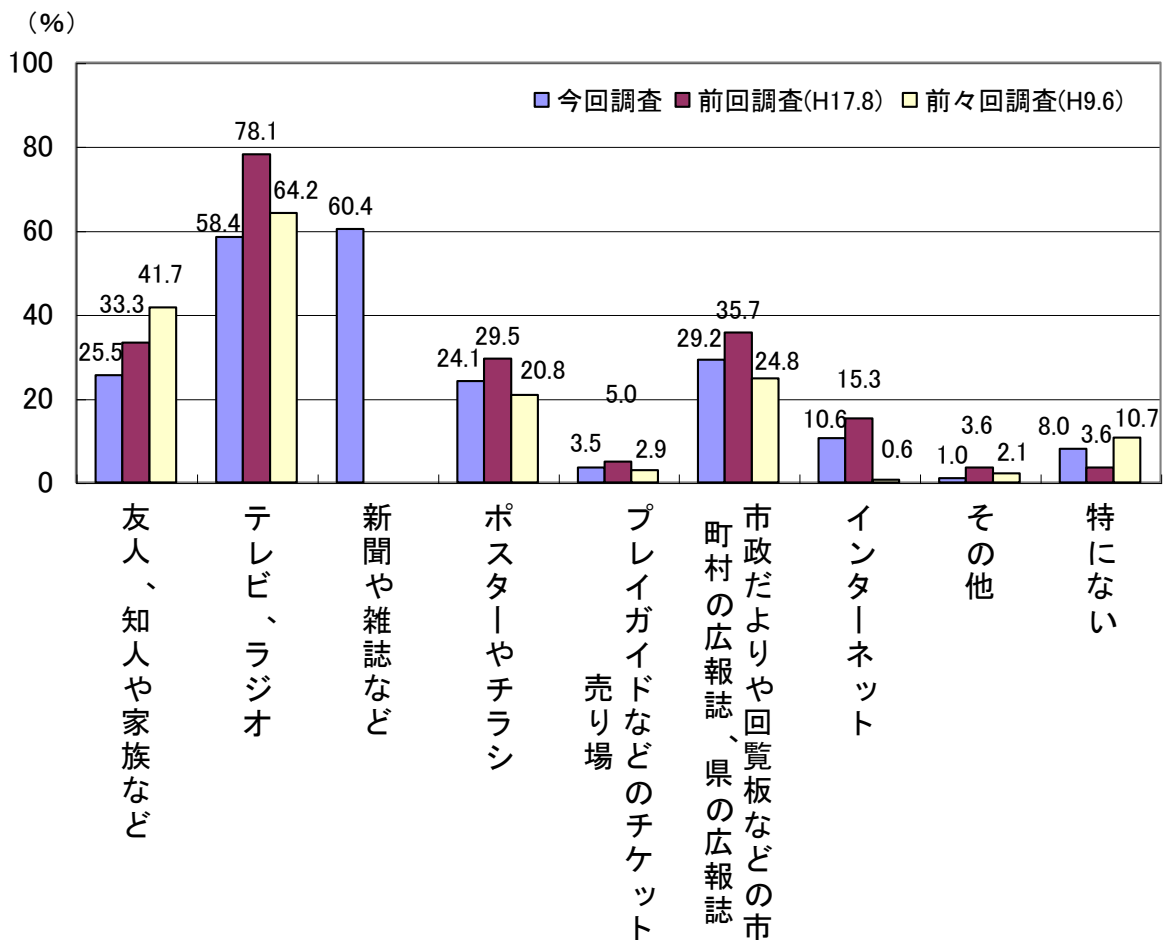


問4 公演や展覧会など、文化の鑑賞に出かけるにあたり、その情報をどこから入手していますか。次の中からいくつでも選んでください。

文化の観賞に出かけるにあたり、その情報をどこから入手したかたずねたところ、「新聞や雑誌など」と回答した人の割合が60.4%と最も高く、次に「テレビ、ラジオ」(58.4%)、「市政だよりや回覧板などの市町村の広報誌、県の広報誌」(29.2%)が高くなっている。

なお、前回、前々回調査において、「テレビ、ラジオ、新聞や雑誌など」と回答した人の割合が最も高くなっている。(前回、前々回調査では、「テレビ、ラジオ」と「新聞や雑誌」が一つの項目になっていた。)

問4 情報の入手先 前回・前々回調査との比較



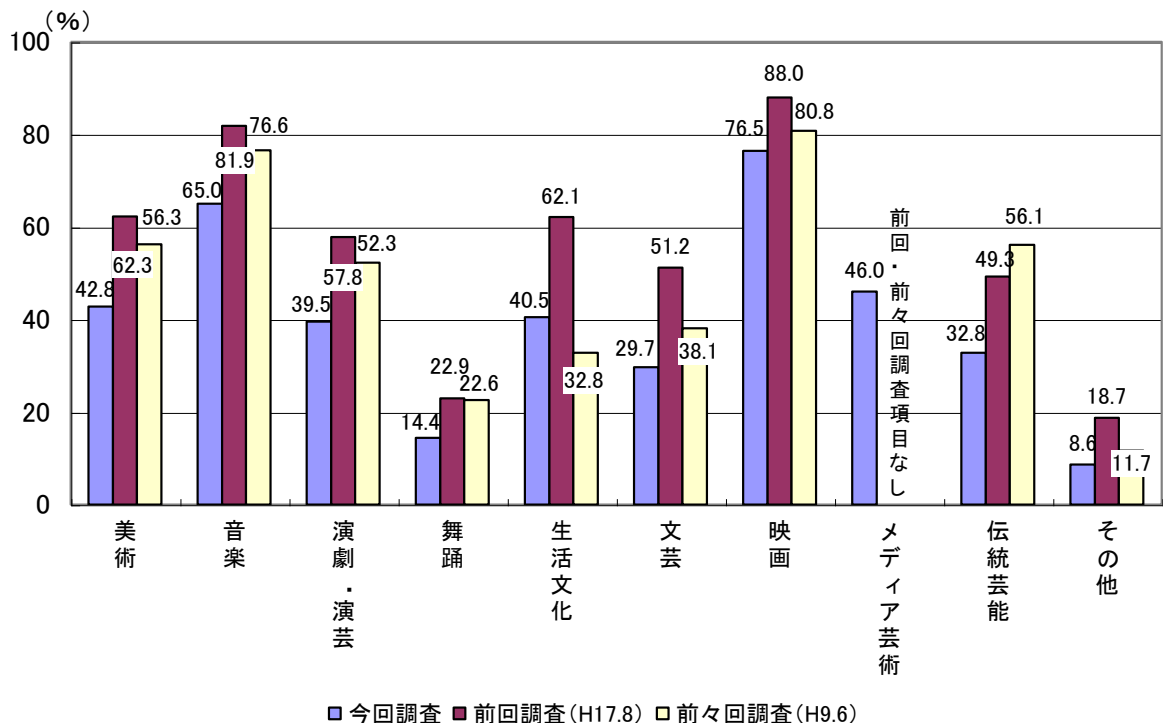
問5 この1年間に、ご家庭において、テレビ、ラジオ、CD、DVD(ブルーレイ含む)、インターネット(携帯電話含む)、書籍などで、何回文化の鑑賞をしましたか。次にあげる分野について、それぞれ1つ選んでください。

この1年間に、家庭でテレビ、ラジオ、CD、DVD、インターネット、書籍などで文化の鑑賞をしたことがあると答えた人は95.3%となっており、前回調査とほぼ同じ割合となっている。

なお、前回調査と比較すると、鑑賞したことがあると答えた人の割合は、全ての分野において低下している。

他方、鑑賞した分野を見ると、「映画」(76.5%)と答えた人の割合が最も高い。次に「音楽」(65.0%)、「メディア芸術」(46.0%)、「美術」(42.8%)、「生活文化」(40.5%)、「演劇・演芸」(39.5%)、「伝統芸能」(32.8%)、「文芸」(29.7%)、「舞踊」(14.4%)、「その他」(8.6%)の順となっている。

問5 テレビ、ラジオなどでの鑑賞状況 前回・前々回調査との比較



問6 文化の鑑賞で、今後もっと鑑賞したい分野はどれですか。また、子どもたちに鑑賞させたい分野はどれですか。次の中からいくつでもあげてください。

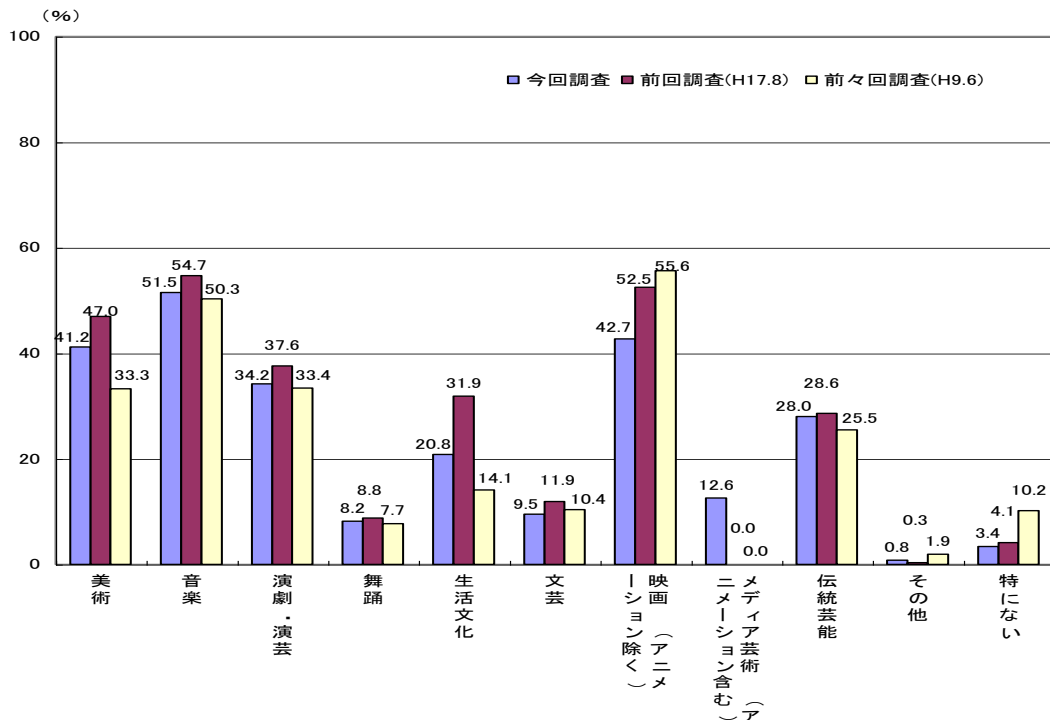
① あなたが今後、鑑賞したい分野

鑑賞したい分野を見ると「音楽」(51.5%)と回答した人の割合が最も高く、次に「映画(アニメーション除く)」(42.7%)、「美術」(41.2%)、「演劇・演芸」(34.2%)、「伝統芸能」(28.0%)、「生活文化」(20.8%)、「メディア芸術(アニメーション含む)」(12.6%)、「文芸」(9.5%)、「舞踊」(8.2%)、の順となっている。

なお、前回調査では、「音楽」(54.7%)と回答した人の割合が最も高く、次に「映画」(52.5%)、「美術」(47.0%)、「演劇・演芸」(37.6%)、「生活文化」(31.9%)、「伝統芸能」(28.6%)、「文芸」(11.9%)、「舞踊」(8.8%)の順となっている。

他方、年代別に見ると、男女とも20歳代で、「音楽」、「文芸」、「映画(アニメーション除く)」、「メディア芸術(アニメーション含む)」と答えた人の割合が高くなっており、男女とも70歳以上で、「美術」と答えた人の割合が高くなっている。

問6 あなたが今後、鑑賞したい分野 前回・前々回調査との比較



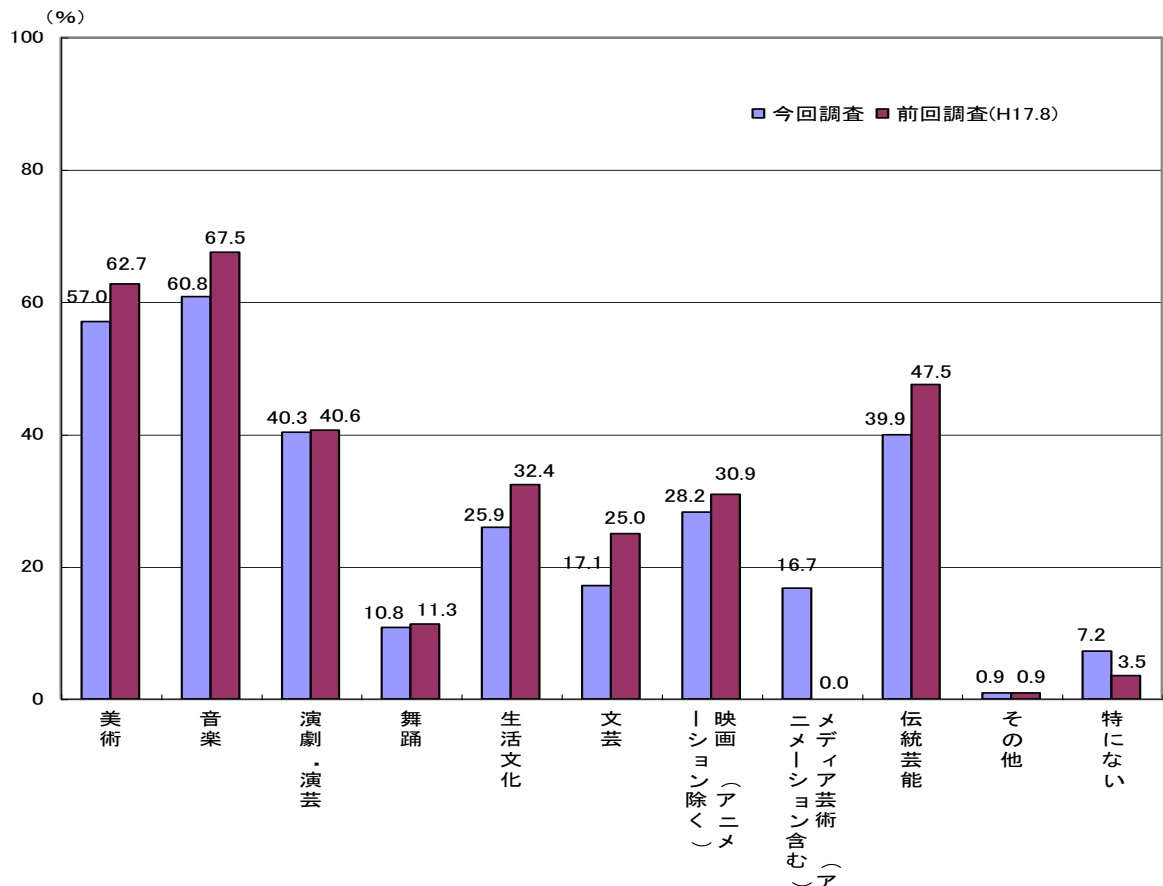
② 子どもたちに鑑賞させたい分野

鑑賞させたい分野を見ると「音楽」(60.8%)と回答した人の割合が最も高く、次に「美術」(57.0%)、「演劇・演芸」(40.3%)、「伝統芸能」(39.9%)、「映画(アニメーション除く)」(28.2%)、「生活文化」(25.9%)、「文芸」(17.1%)、「メディア芸術(アニメーション含む)」(16.7%)、「舞踊」(10.8%)の順となっている。

なお、年代別に見ると、男女とも20歳代で、「舞踊」と答えた人の割合が高くなっており、男女とも40歳代で、「音楽」と答えた人の割合が高くなっている。

前回調査では、「音楽」(67.5%)と回答した人の割合が最も高く、次に「美術」(62.7%)、「伝統芸能」(47.5%)、「演劇・演芸」(40.6%)、「生活文化」(32.4%)、「映画」(30.9%)、「文芸」(25.0%)、「舞踊」(11.3%)の順となっている。

問6 子どもたちに鑑賞させたい分野 前回調査との比較



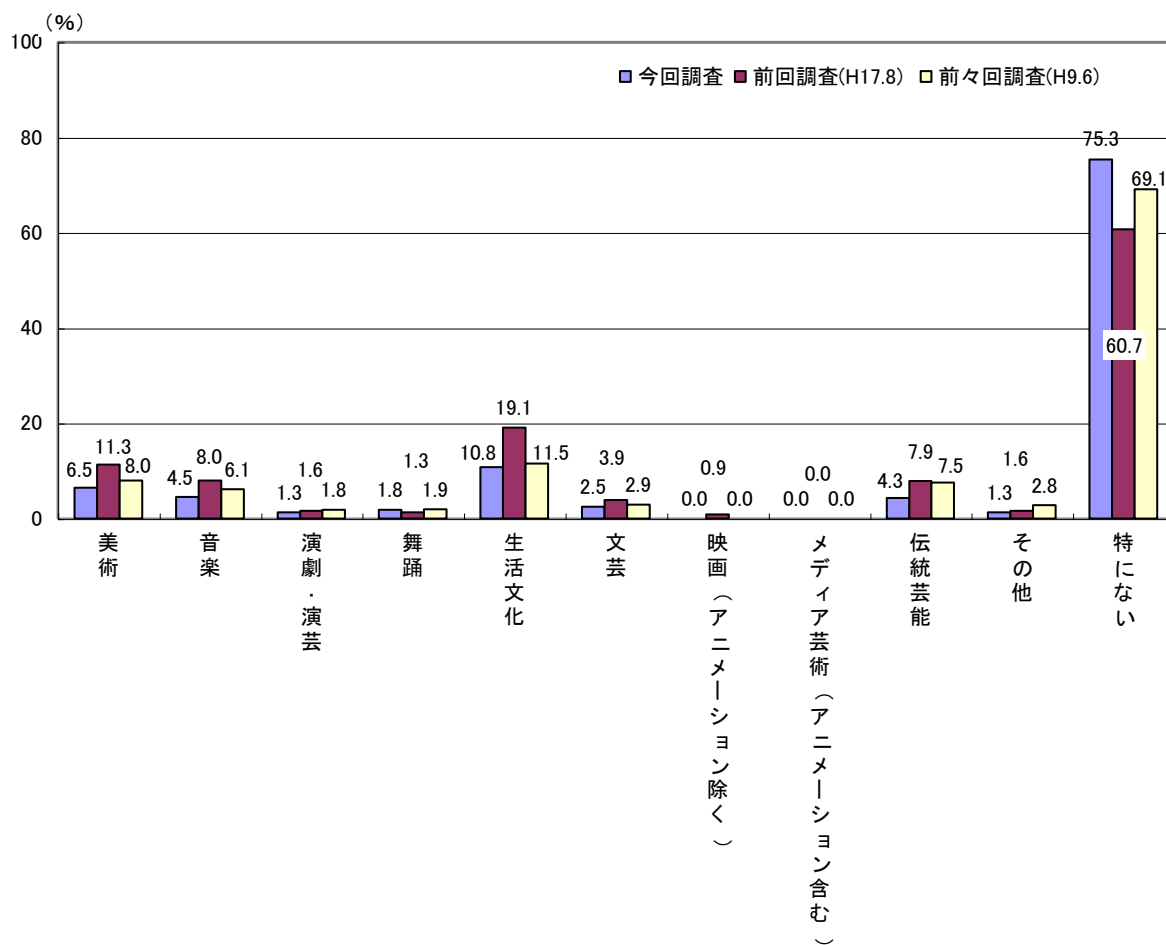
問7(1) この1年間に、ご自身で演じたり、作ったりした文化活動はありますか。また、今後ご自身で演じたり、作ったりしてみたいと思う文化活動はありますか。次の中からいくつでもあげてください。

① 演じたり、作ったりした文化活動

この1年間に、自分で演じたり、作ったりした文化活動があると答えた人の割合は、24.7%となっている。演じたり、作ったりした文化活動を見ると、「生活文化」(10.8%)をあげた人の割合が最も高く、次に「美術」(6.5%)、「音楽」(4.5%)、「伝統芸能」(4.3%)の順となっており、上位項目については前回調査と同様の順となっている。

なお、性別に見ると、演じたり、作ったりしたものと答えた人の割合は女性(41.6%)の方が高くなっている。

問7(1) 演じたり、作ったりした文化活動 前回・前々回調査との比較

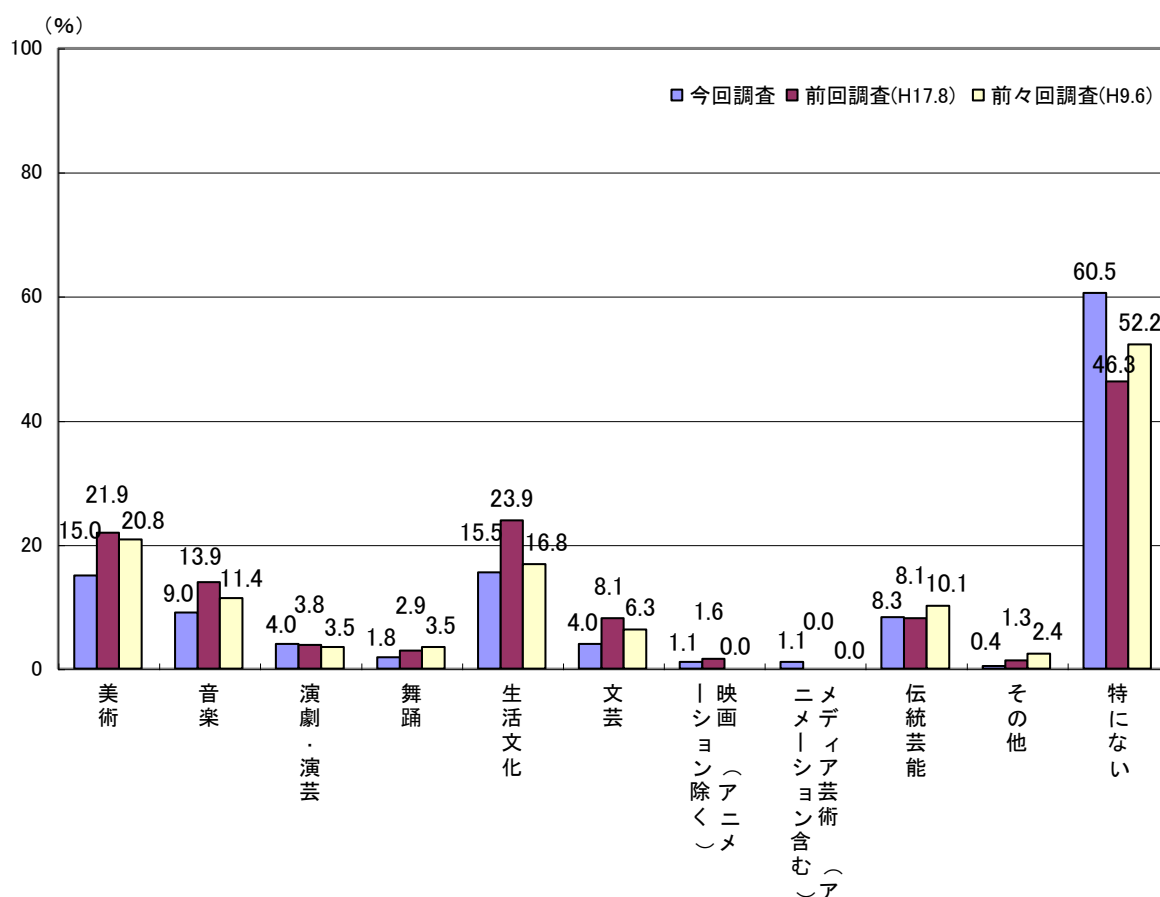


② 今後、演じたり、作ったりしたい文化活動

今後、自分で演じたり、作ったりしてみたい文化活動があると答えた人は 39.5% となっている。演じたり、作ったりしてみたい文化活動を見ると、「生活文化」(15.5%) をあげた人の割合が最も高く、次に「美術」(15.0%)、「音楽」(9.0%) の順となっており、上位項目については前回調査と同様の順となっている。

なお、性別に見ると、演じたり、作ったりしたものがあると答えた人の割合は女性(44.5%)の方が高くなっている。

問7(1) 今後、演じたり、作ったりしたい文化活動 前回・前々回調査との比較



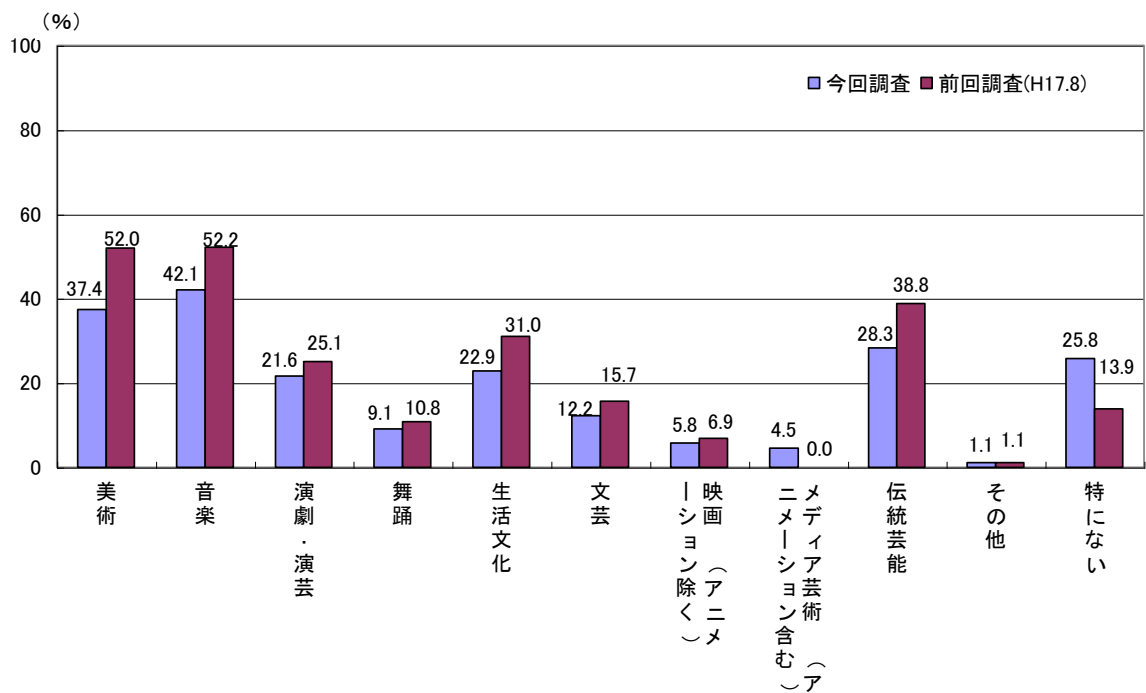
問7(2) 子どもたちに、今後、演じたり、作ったりさせてみたいと思う文化活動（現在させている文化活動を含む。）はありますか。次の中からいくつでもあげてください。

子どもたちに演じたり、作ったりさせてみたい分野を見ると、「音楽」（42.1％）をあげた人の割合が最も高く、次に「美術」（37.4％）、「伝統芸能」（28.3％）、「生活文化」（22.9％）の順となっており、上位項目については前回調査と同様の順となっている。

なお、性別に見ると、「美術」、「音楽」と回答した人の割合は男女ともに高くなっている。

地域別に見ると、「美術」と回答した人の割合は砺波地域（50.9％）で高くなっている。

問7（2） 子どもたちに、今後、演じたり、作ったりさせてみたい文化活動 前回調査との比較

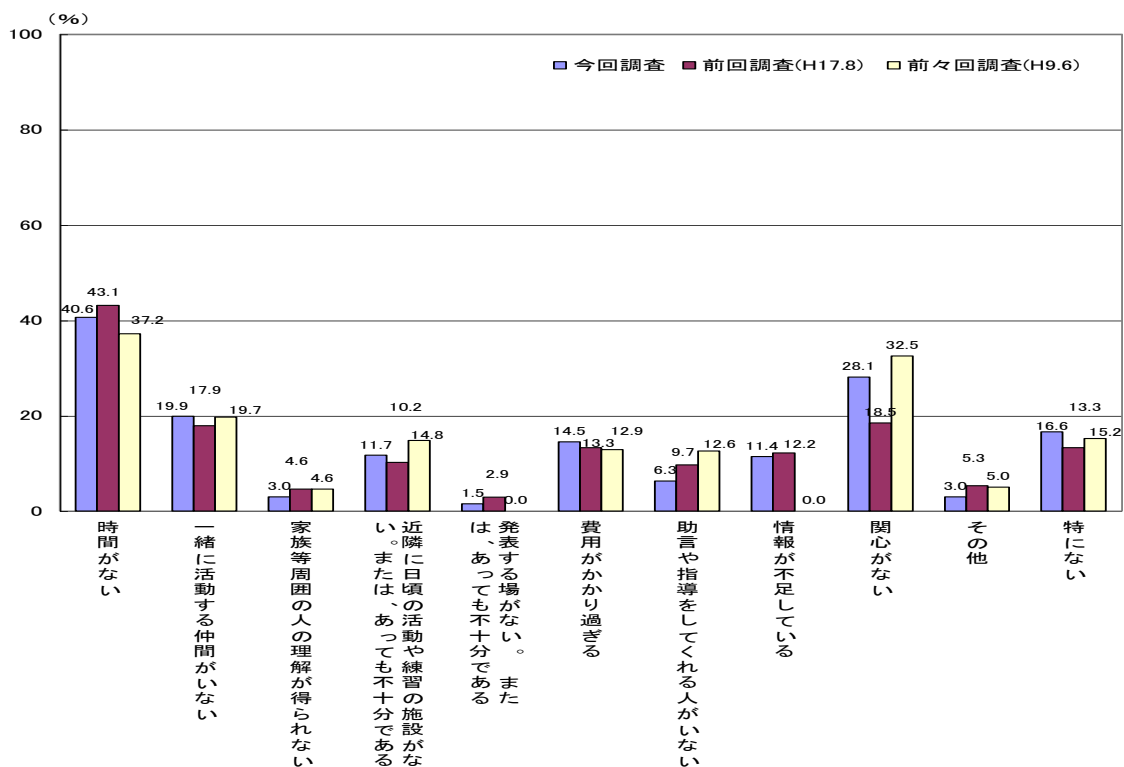


問8 あなたがご自身で演じたり、作ったりする文化活動を行ううえで支障となっていること（文化活動をしなかった方は、その理由）は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

文化活動を行ううえで支障となっていること（文化活動をしなかった方は、その理由）としては、「時間がない」(40.6%)と回答した人の割合が最も高く、次に「関心がない」(28.1%)、「一緒に活動する仲間がない」(19.9%)、「費用がかかり過ぎる」(14.5%)、「近隣に日頃の活動や練習の施設がない。または、あっても不十分である」(11.7%)、「情報が不足している」(11.4%)の順となっている。

なお、前回調査では、「時間がない」(43.1%)と回答した人の割合が最も高く、次に「関心がない」(18.5%)、「一緒に活動する仲間がない」(17.9%)、「費用がかかり過ぎる」(13.3%)、「情報が不足している」(12.2%)の順となっており、上位項目については前回調査とほぼ同様の順となっている。また、「特になし」と答えた人の割合は、16.6%となっている。

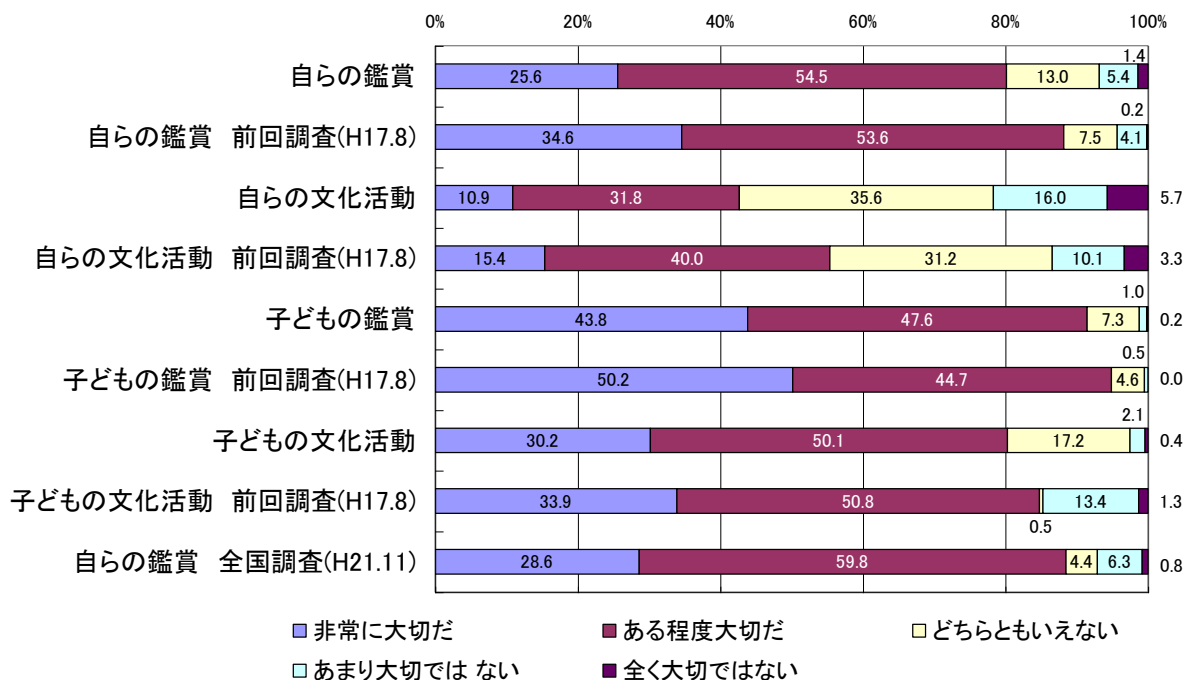
問8 演じたり、作ったりする文化活動支障理由 前回・前々回調査との比較



問 9(1) 日常生活の中でいろいろな文化を鑑賞したり、自ら演じたり、作ったりすることが、自分にとって大切だと思いますか。次の中から1つ選んでください。
 (2) 子どもたちにとって、文化を鑑賞したり、自ら演じたり、作ったりすることは、大切だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

自分にとって文化を鑑賞することは大切だと答えた人の割合は、80.1%（「非常に大切だ」25.6%+「ある程度大切だ」54.5%）となっており、自ら演じたり、作ったりする文化活動は大切だと答えた人の割合は、42.7%（「非常に大切だ」10.9%+「ある程度大切だ」31.8%）となっている。

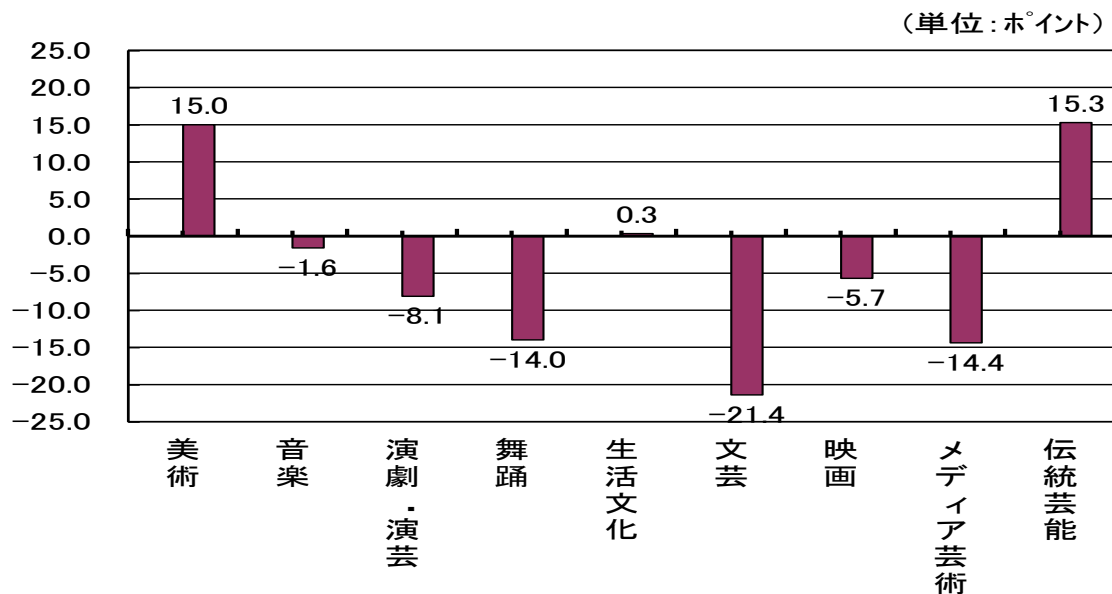
なお、子どもたちにとって文化を鑑賞することは大切だと答えた人の割合は、91.4%（「非常に大切だ」43.8%+「ある程度大切だ」47.6%）となっており、子どもたちにとって、自ら演じたり、作ったりする文化活動は大切だと答えた人の割合は、80.3%（「非常に大切だ」30.2%+「ある程度大切だ」50.1%）となっている。



問10 本県の文化活動は盛んであると思いますか。次にあげる分野について、それぞれ1つ選んで下さい。

本県の文化活動が盛んである、または盛んでないと思う点を、盛んと思うと答えた人(「盛んだ」+「どちらかというと盛んだ」と盛んでないと思うと答えた人(「あまり盛んでない」+「盛んでない」との差(以下「ポイント差」という)で見してみる。

なお、盛んと思っている人の割合が高かった分野は、「伝統芸能」(15.3ポイント)、「美術」(15.0ポイント)、盛んでないと思っている人の割合が高かった分野は、「文芸」(-21.4ポイント)、「メディア芸術」(-14.4ポイント)、「舞踊」(-14.0ポイント)、「演劇・演芸」(-8.1ポイント)となっている。



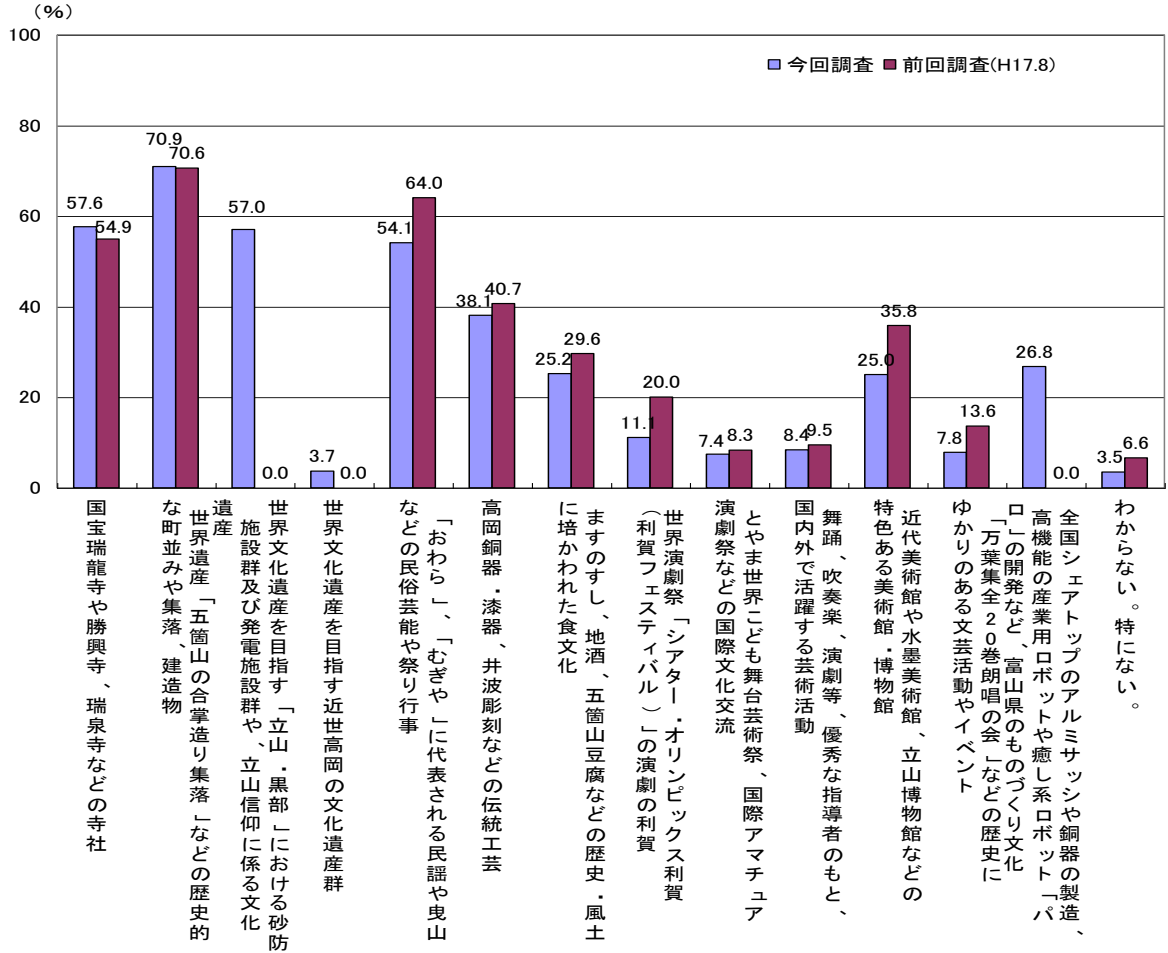
問 11(1) あなたが、全国的にまたは国際的に誇れる「文化」、「文化活動」及び「文化財」とお考えのものはありますか。次の中からいくつでも選んでください。

全国的にまたは国際的に誇れる「文化」、「文化活動」及び「文化財」については、「世界遺産『五箇山の合掌造り集落』などの歴史的な町並みや集落、建造物」(70.9%)と回答した人の割合が最も高く、次に「国宝瑞龍寺や勝興寺、瑞泉寺などの寺社」(57.6%)、「世界文化遺産を目指す『立山・黒部』における砂防施設群及び発電施設群や、立山信仰に係る文化遺産」(57.0%)、「『おわら』、『むぎや』に代表される民謡や曳山などの民俗芸能や祭り行事」(54.1%)と回答した人の割合が50%を超えている。

なお、年代別に見ると、「ますのすし、地酒、五箇山豆腐などの歴史・風土に培われた食文化」と回答した人の割合が男性の20歳代(53.3%)、女性の50歳代(32.1%)で高く、「近代美術館や水墨美術館、立山博物館などの特色ある美術館・博物館」と回答した人の割合が男性の20歳代(26.7%)、女性の70歳以上(62.2%)で高くなっている。

他方、「近代美術館や水墨美術館、立山博物館などの特色ある美術館・博物館」を選択した人が特にどの施設を誇れると考えるかについては、「水墨美術館」(64.0%)と回答した人の割合が最も高く、次に「立山博物館」(22.4%)、「近代美術館」(13.6%)の順になっている。

問 1 1 誇れる「文化」等 前回調査との比較



問11サ 近代美術館や水墨美術館、立山博物館などの特色ある美術館・博物館 (サを選択された方は、特にどの施設とお考えですか。)

該当者数	近代美術館	水墨美術館	立山博物館	その他
人	%	%	%	%
125	13.6	64.0	22.4	0.0

問 11(2) (1)の「文化」、「文化活動」及び「文化財」以外で、あなたの身近にある、あまり知られていない富山県の宝ともいえるべき「文化」、「文化活動」及び「文化財」があれば、教えてください。

(主な意見等)

- ・ よさこい踊り
- ・ 藤子F 不二雄さんの書籍
- ・ 歴史あるいたち川沿いの湧水
- ・ 地藏盆
- ・ 各地域、地区の祭礼や子どもの稚子舞など
- ・ 水産資源(富山湾の幸・氷見ほかのブランド魚類)
- ・ 薬業、配置薬など
- ・ 自然、人のつながり
- ・ 福野高校の巖浄閣
- ・ 富山県の獅子舞
- ・ 歴史の分野で価値あるものの再評価(名所遺跡 etc)
- ・ アルペンルート
- ・ 滑川のねぶた流し
- ・ 高岡古城公園
- ・ 越中和紙(特に最近途絶えた「蛭谷和紙」は残念)
- ・ 富山弁
- ・ 富山県のことを上手に詩に盛り込んだ歌
- ・ 小矢部市 桜町遺跡から出土した遺物、その他市内の遺跡から出土した遺物
- ・ 舟見七夕祭り

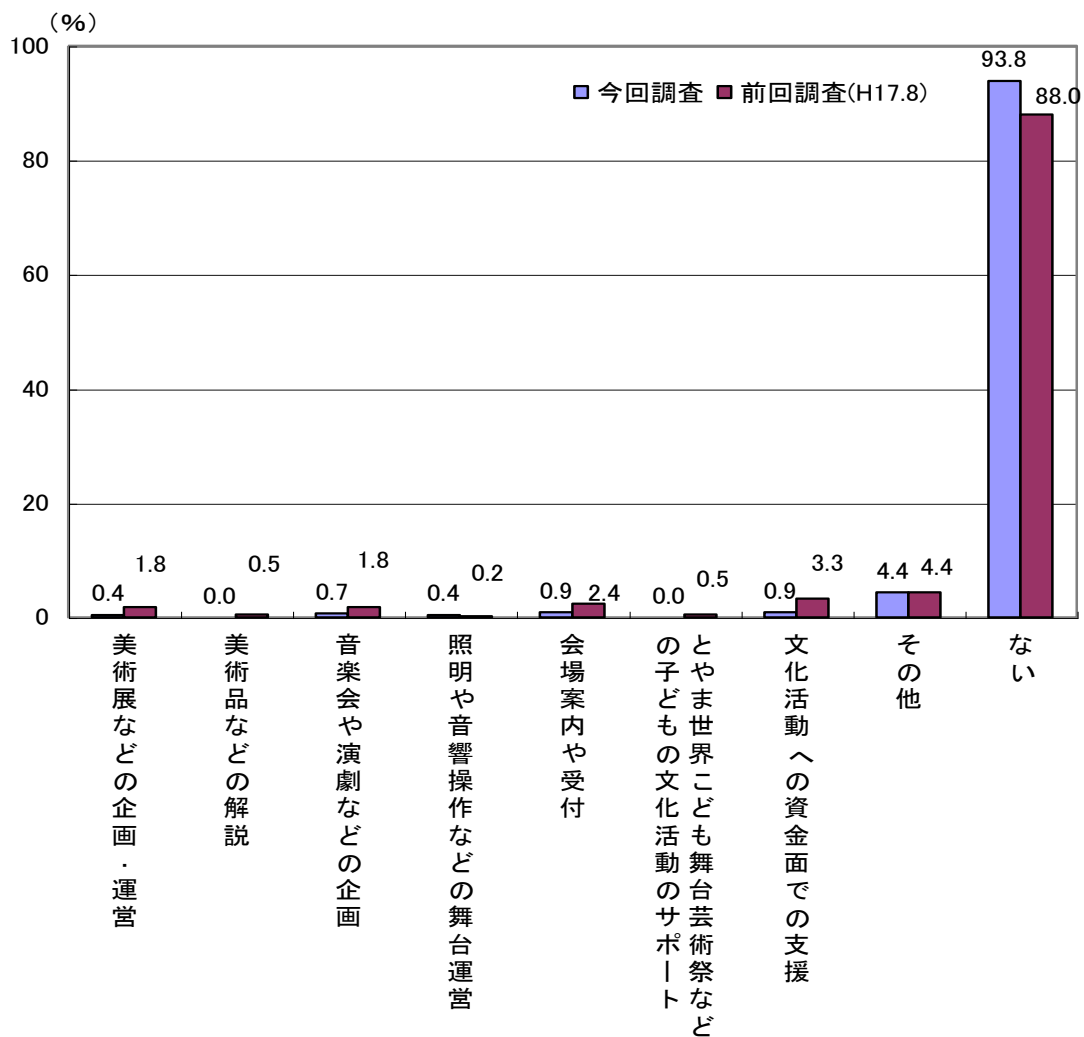
問 12(1) 現在何か文化ボランティア活動をしていますか。または、今後したいと思えますか。次の中からいくつでもあげてください。

①□現在している文化ボランティア活動

現在何か文化ボランティア活動をしていると答えた人の割合は、6.2%となっており、前回(12.0%)よりも低くなっている。

なお、現在している文化ボランティア活動としては、「会場案内や受付」、「文化活動への資金面での支援」と回答した人の割合がともに0.9%と最も高く、次に「音楽会や演劇などの企画」(0.7%)の順となっている。ほとんどの人は「ない」(93.8%)と答えている。

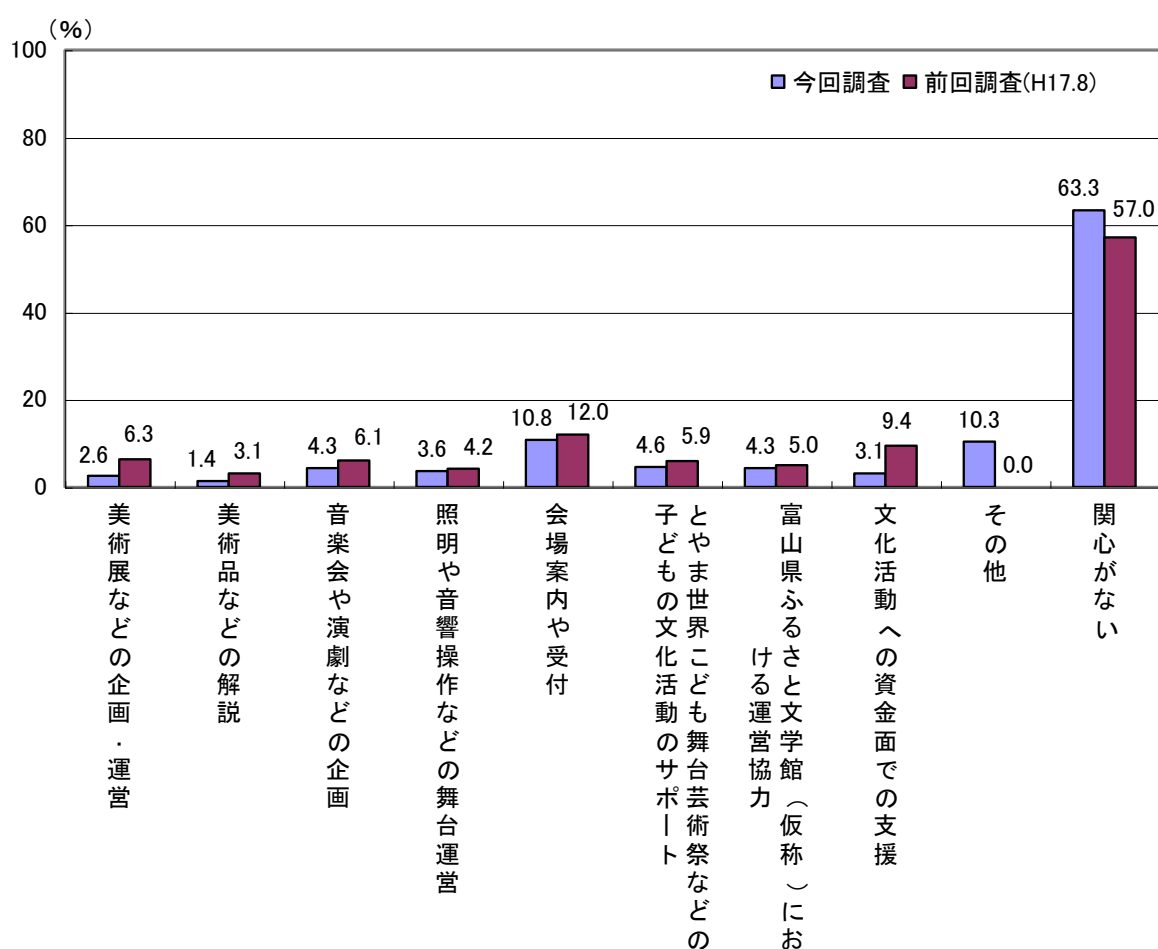
問 12 (1) 現在している文化ボランティア活動 前回調査との比較



③ 今後したいと思うボランティア活動

今後したいと思う文化ボランティア活動としては、「会場案内や受付」(10.8%)と回答した人の割合が最も高く、次に、「とやま世界こども舞台芸術祭などの子どもの文化活動のサポート」(4.6%)、「音楽会や演劇などの企画」及び「文化活動への資金面での支援」(4.3%)、「照明や音響操作などの舞台運営」(3.6%)の順となっている。

問12(1) 今後したいと思う文化ボランティア活動 前回調査との比較

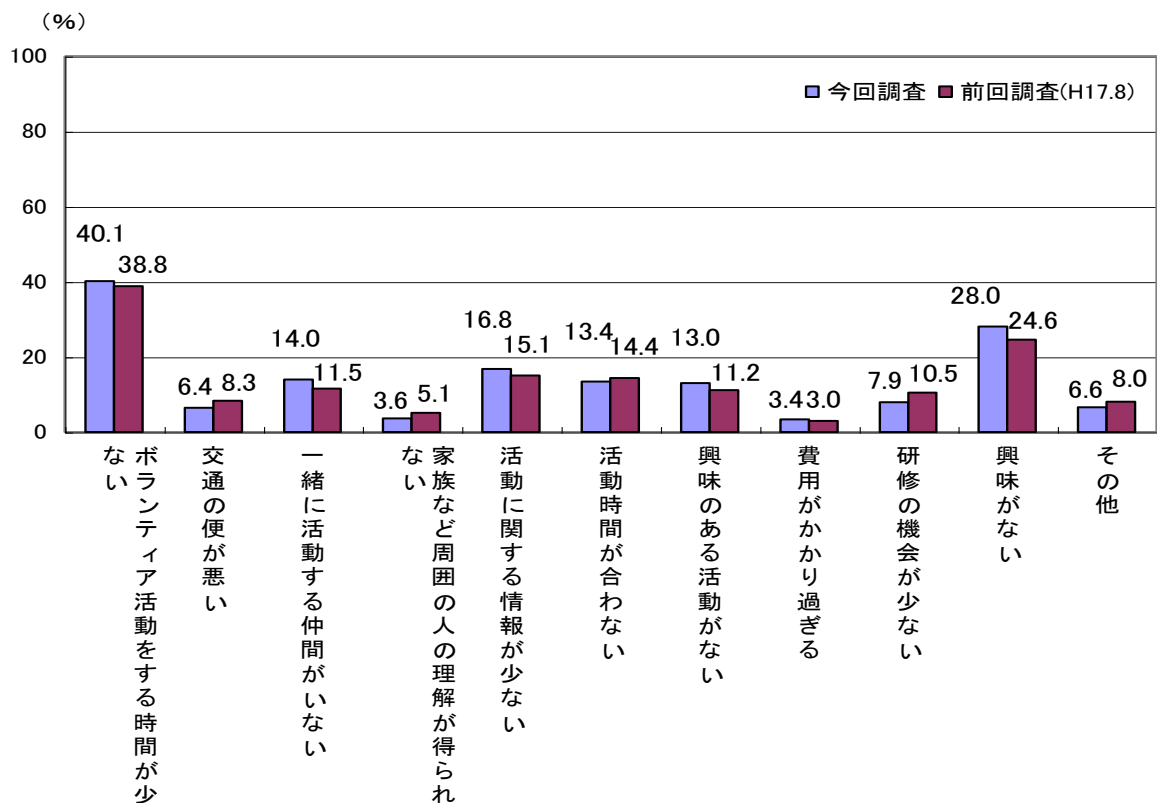


問 12(2) あなたが文化ボランティア活動をする際に支障となっている(あるいは、しようと考えた際に支障となるだろうと思われる)ことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

文化ボランティア活動の支障となっている(しようと考えた際に支障となるだろうと思われる)こととしては、「ボランティア活動をする時間が少ない」(40.1%)と回答した人の割合が最も高く、次に「興味がない」(28.0%)、「活動に関する情報が少ない」(16.8%)、「一緒に活動する仲間がいない」(14.0%)の順となっている。

なお、前回調査では、「ボランティア活動をする時間が少ない」(38.8%)と回答した人の割合が最も高く、次に「興味がない」(24.6%)、「活動に関する情報が少ない」(15.1%)、「活動時間が合わない」(14.4%)、「一緒に活動する仲間がいない」(11.5%)、「興味のある活動がない」(11.2%)、「研修の機会が少ない」(10.5%)、「交通の便が悪い」(8.3%)、「家族等周囲の人の理解が得られない」(5.1%)、「費用がかかり過ぎる」(3.0%)の順になっている。

問 12 (2) 文化ボランティア活動の支障 前回調査との比較



問 12(3) 子どもたちが、今後文化ボランティア活動に参加するためには、どのような取り組みが必要とお考えですか。ご自由に記入願います。

(主な意見等)

- ・ 学校や児童会における体験する機会の増加
- ・ 活動参加を勧め、親子での体験の場をつくる
- ・ 交通の便、送迎
- ・ 子ども達が長く住みたい環境作りが必要
- ・ 一緒に活動できる仲間作りが必要不可欠
- ・ 文化活動は敷居が高いイメージがあり、親自身もなかなかふれあう機会がない
- ・ 「やらされるボランティア活動」も大切
- ・ ボランティア活動に対する役割、協力性、必要性を説くこともよい
- ・ 近隣の協調性に欠けていて、研修の機会も少な過ぎる
- ・ 広告、宣伝による参加のよびかけ
- ・ 一部の人の活動ではなく真に広く皆へ知らせる活動、取組み
- ・ 富山の伝統、文化活動の主役に位置づけて、継承させていく
- ・ 遠足などの学校の行事として参加させる
- ・ 情報入手、子供が興味・関心を持つ世界の活動、イベントを増やす
- ・ 学習塾の縮小、廃止
- ・ 親子で企画に参加できる回数を増やす
- ・ 各種文化に興味を持たせる為、多くの催しに参加させる(見学)
- ・ 地区の行事活動を年に何回か計画しそれに参加してもらう
- ・ 地域の大人の協力、理解、大人(親)も子どもといっしょに参加する試みが必要
- ・ 子どもに、文化の事をわかりやすく理解してもらう必要がある
- ・ マスコミやインターネットなどの力を借りる
- ・ 保護者会を含め周囲の大人達が、手本を示す必要がある

問 13(1) 民謡や曳山など、あなたの住んでいる地域の民俗芸能、祭礼行事を最近ご自分で演じたり、参加したりしたことがありますか。

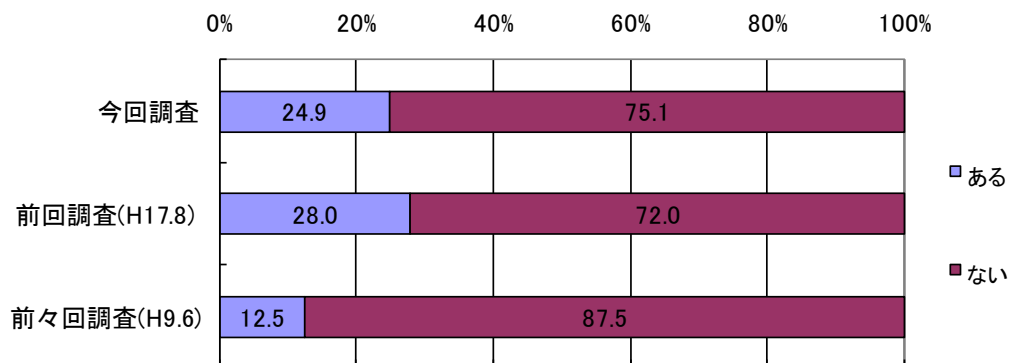
地域の民俗芸能等を演じたり参加したことがあると答えた人の割合は、24.9%となっている。

なお、前回（28.0%）、前々回（12.5%）調査と比較してみると、「ある」と答えた人の割合は前回より低下しており、前々回より上昇している。

他方、性別に見ると、「ある」と答えた人の割合は男性（28.0%）で高くなっている。

地域別に見ると、「ある」と答えた人の割合は、砺波地域（39.1%）で高くなっている。

問 1 3 （ 1 ） 地域の民俗芸能を演じたり、参加したこと 前回・前々回調査との比較



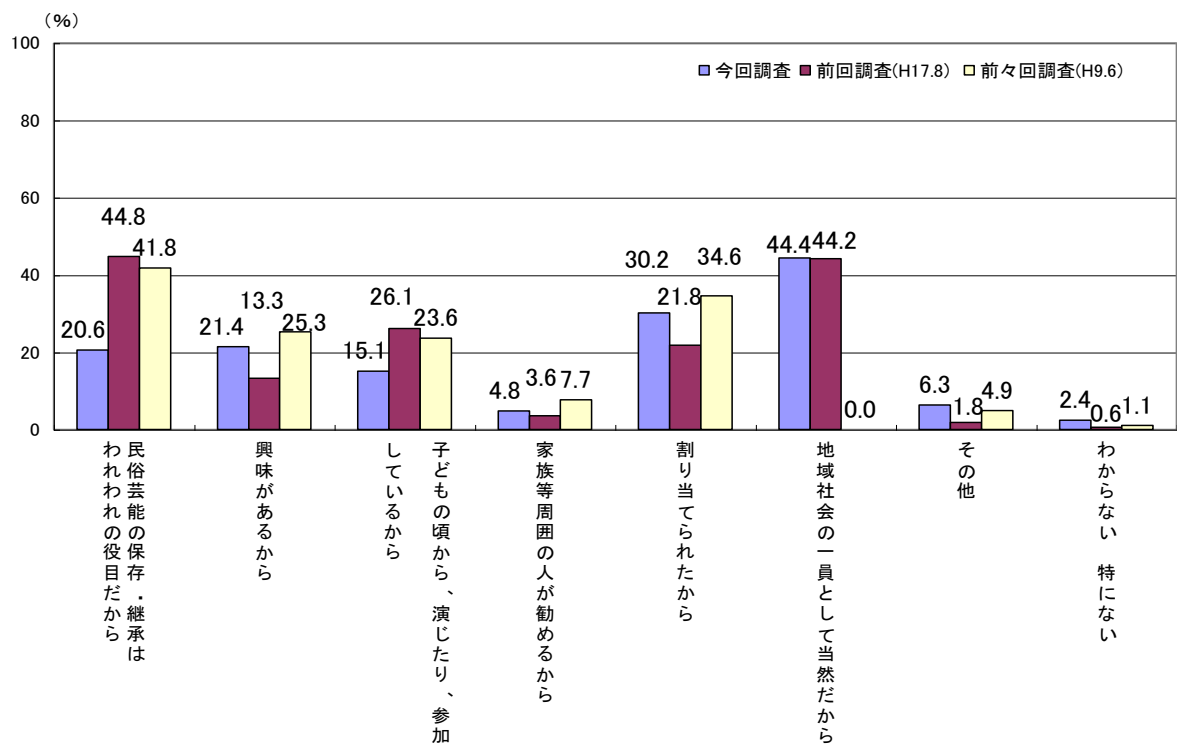
問 13(2) (1)で「ある」とお答えになった方におたずねします。あなたが、ご自分で演じたり、参加したきっかけは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

地域の民俗芸能を自分で演じたり、参加したきっかけとしては、「地域社会の一員として当然だから」(44.4%)と答えた人の割合が最も高く、次に「割り当てられたから」(30.2%)、「興味があるから」(21.4%)の順となっている。

なお、前回調査では、「民俗芸能や祭礼行事の保存・継承はわれわれの役目だから」(44.8%)と答えた人の割合が最も高く、次に「地域社会の一員として当然だから」(44.2%)、「子どもの頃から、演じたり、参加しているから」(26.1%)の順となっている。

他方、性別に見ると、男女ともに「地域社会の一員として当然だから」(男性 53.2%、女性 35.9%)と答えた人の割合が最も高く、男性では、次に「民俗芸能の保存・継承はわれわれの役目だから」(30.6%)、女性では、「割り当てられたから」(32.8%)と答えた人の割合が高くなっている。

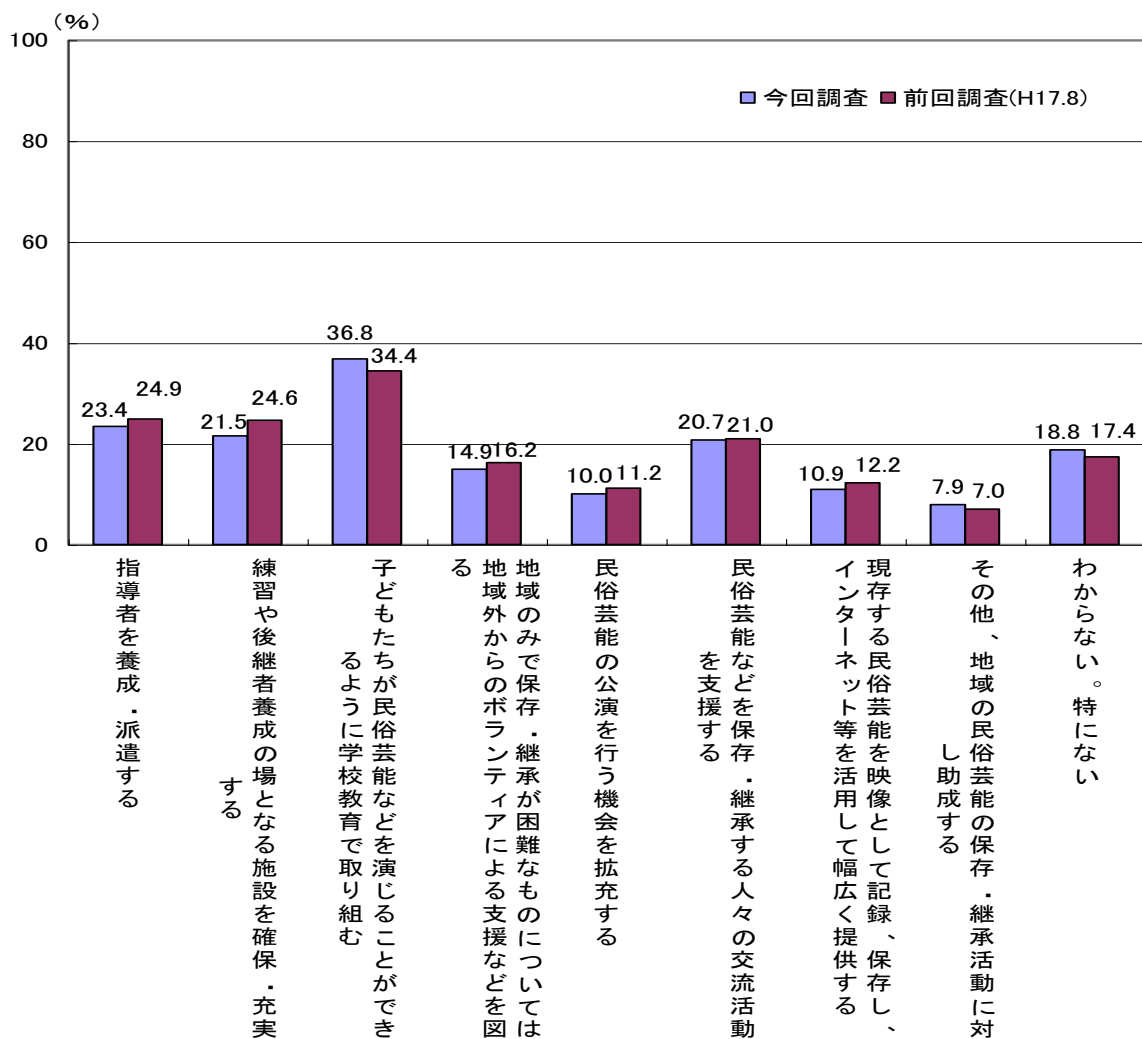
問 1 3 (2) 演じたり、参加したきっかけについて 前回・前々回調査との比較



問 14 民謡や曳山など、地域の民俗芸能、祭礼行事の保存・継承に関して、今後、県や市町村は特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

地域の民俗芸能、祭礼行事の保存・継承に関して、今後、県や市町村が力を入れることについては、「子どもたちが民俗芸能などを演じることができるよう学校教育で取り組む」(36.8%)と回答した人の割合が最も高く、次に「指導者を養成・派遣する」(23.4%)、「練習や後継者養成の場となる施設を確保、充実する」(21.5%)、「民俗芸能などを保存・継承する人々の交流活動を支援する」(20.7%)の順となっており、上位項目については前回調査と同様の順となっている。

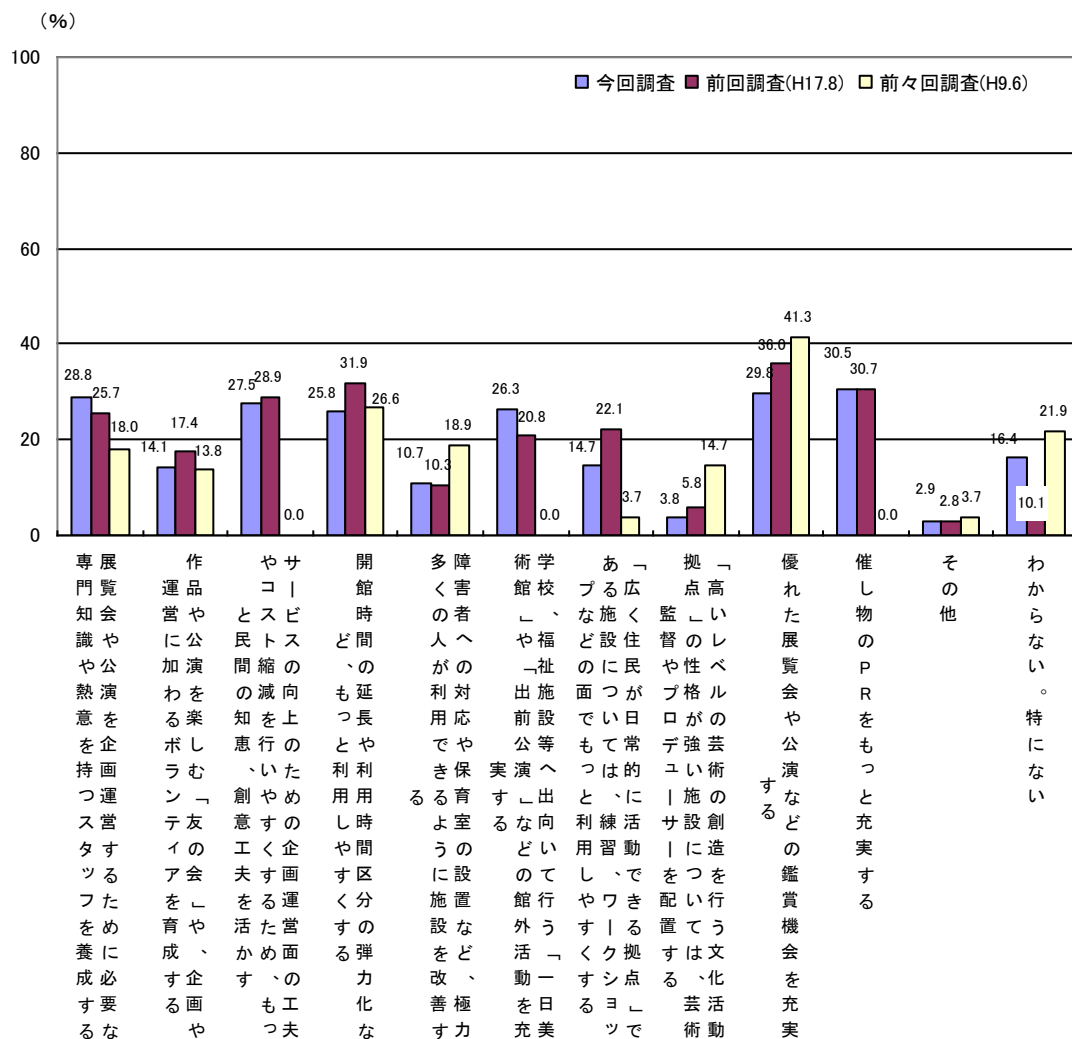
問 1 4 地域の民俗芸能、祭礼行事の保存・継承 前回調査との比較



問15 美術館や文化ホールなどの文化施設が、今後地域の文化活動の拠点となるためには、県や市町村は特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

美術館や文化ホールなどの文化施設が、文化活動の拠点となるために力を入れることについては、「催し物のPRをもっと充実する」(30.5%)と回答した人の割合が最も高く、次に「優れた展覧会や公演などの鑑賞機会を充実する」(29.8%)、「展覧会や公演を企画運営するために必要な専門知識や熱意を持つスタッフを養成する」(28.8%)、「サービスの向上のための企画運営面の工夫やコスト削減を行いやすくするため、もっと民間の知恵、創意工夫を活かす」(27.5%)の順となっている。

問15 文化施設について、県や市町村が力を入れること 前回・前々回調査との比較

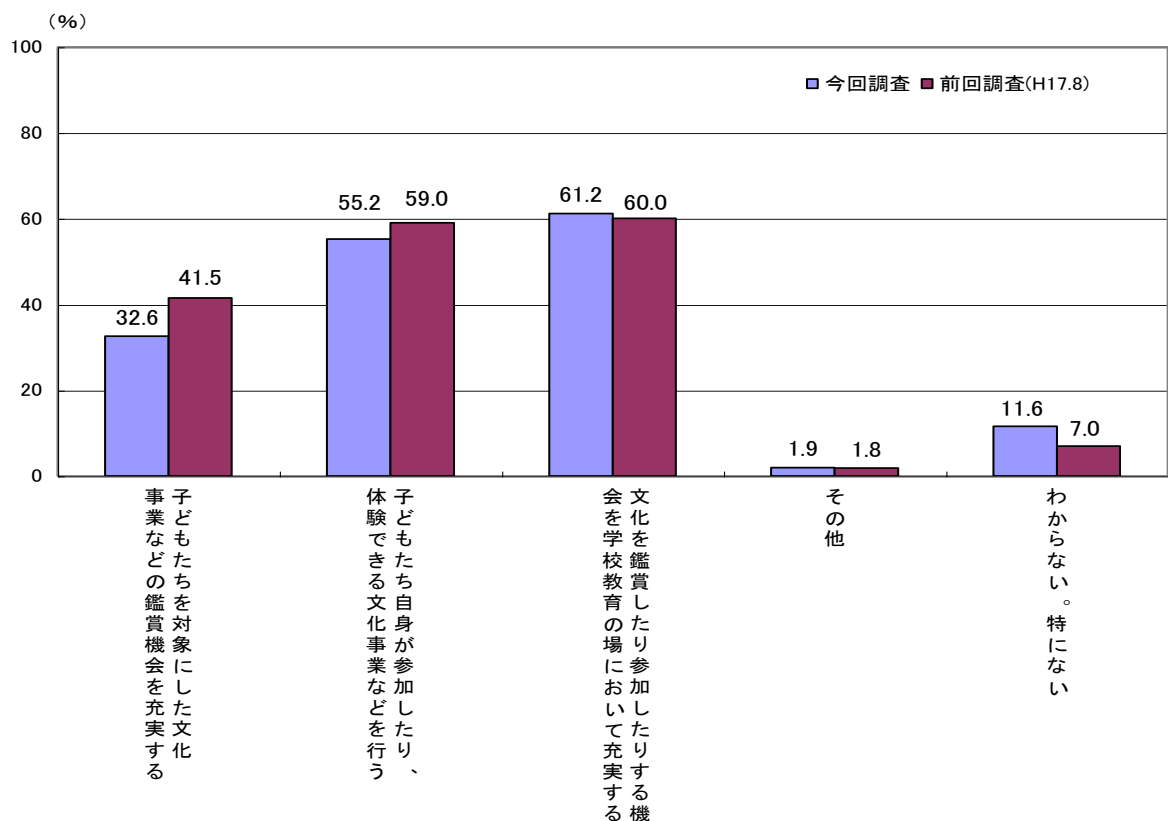


問 16 あなたは、子どもたちが文化に親しむ機会を充実するため、県や市町村はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

子どもたちが文化に親しむ機会を充実するために力を入れることについては、「文化を鑑賞したり参加したりする機会を学校教育の場において充実する」(61.2%)と回答した人の割合が最も高く、次に「子どもたち自身が参加したり、体験できる文化事業などを行う」(55.2%)、「子どもたちを対象にした文化事業などの鑑賞機会を充実する」(32.6%)の順となっている。

なお、前回調査では、「文化を鑑賞したり参加したりする機会を学校教育の場において充実する」(60.0%)と回答した人の割合が最も高く、次に「子どもたち自身が参加したり、体験できる文化事業などを行う」(59.0%)、「子どもたちを対象にした文化事業などの鑑賞機会を充実する」(41.5%)の順となっている。

問 16 子どもたちが文化に親しむために力を入れること 前回調査との比較

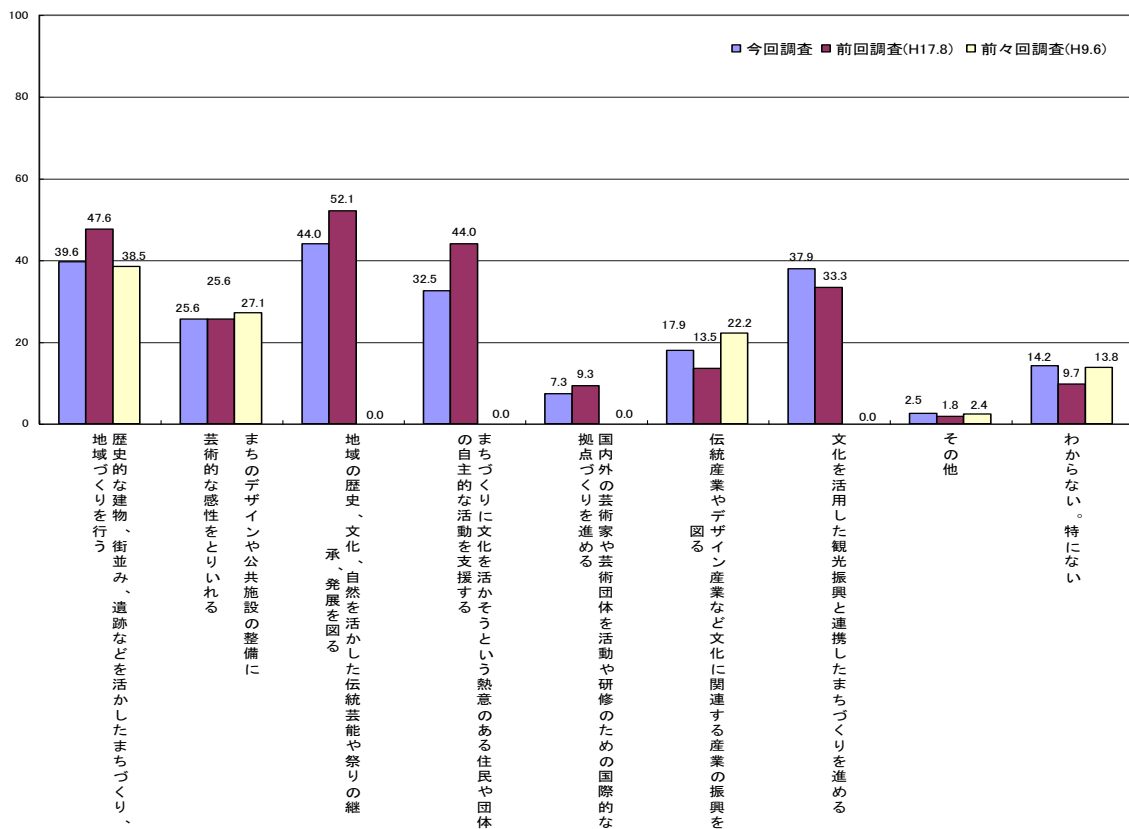


問 17 個性的な地域文化を活かして、文化が息づくまちづくりを進めていくためには、県や市町村は特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

文化が息づくまちづくりに関し力を入れることについては、「地域の歴史、文化、自然を活かした伝統芸能や祭りの継承、発展を図る」(44.0%)と回答した人の割合が最も高く、次に「歴史的な建物、街並み、遺跡などを活かしたまちづくり、地域づくりを行う」(39.6%)、「文化を活用した観光振興と連携したまちづくりを進める」(37.9%)、「まちづくりに文化を活かそうという熱意のある住民や団体の自主的な活動を支援する」(32.5%)の順となっている。

なお、前回調査では、「地域の歴史、文化、自然を活かした伝統芸能や祭りの継承、発展を図る」(52.1%)と回答した人の割合が最も高く、次に「歴史的な建物、街並み、遺跡などを活かしたまちづくり、地域づくりを行う」(47.6%)、「まちづくりに文化を活かそうという熱意のある住民や団体の自主的な活動を支援する」(44.0%)の順となっている。

問 17 文化が息づくまちづくりに関し、力を入れること 前回・前々回調査との比較

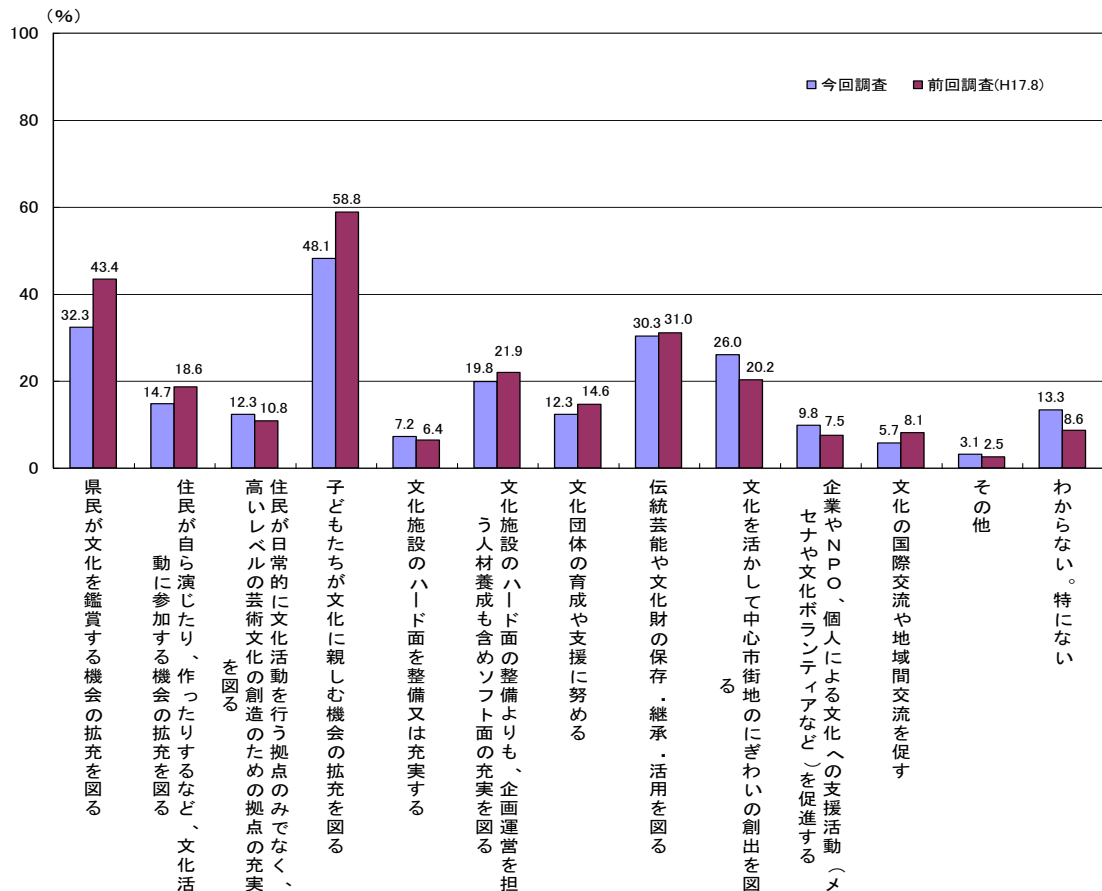


問18 文化の振興を通じて「元気とやま」を創造するために、県や市町村が重点を置くべき施策は何だと思えますか。次の中から、3つまで選んでください。

文化の振興を通じて「元気とやま」を創造するために、重点を置くべき施策については、「子どもたちが文化に親しむ機会の拡充を図る」(48.1%)と回答した人の割合が最も高く、次に「県民が文化を鑑賞する機会の拡充を図る」(32.3%)、「伝統芸能や文化財の保存・継承・活用を図る」(30.3%)、「文化を活かして中心市街地のにぎわいの創出を図る。」(26.0%)、「文化施設のハード面の整備よりも、企画運営を担う人材養成も含めソフト面の充実を図る。」(19.8%)の順となっている。

なお、前回調査では、「子どもたちが文化に親しむ機会の拡充を図る」(58.8%)と回答した人の割合が最も高く、次に「県民が文化を鑑賞する機会の拡充を図る」(43.4%)、「伝統芸能や文化財の保存・継承・活用を図る」(31.0%)、「文化施設のハード面の整備よりも、企画運営を担う人材養成も含めソフト面の充実を図る」(21.9%)、「文化を活かして中心市街地のにぎわいの創出を図る」(20.2%)の順となっている。

問18 文化の振興を通じて「元気とやま」を創造する 前回調査との比較 (%)

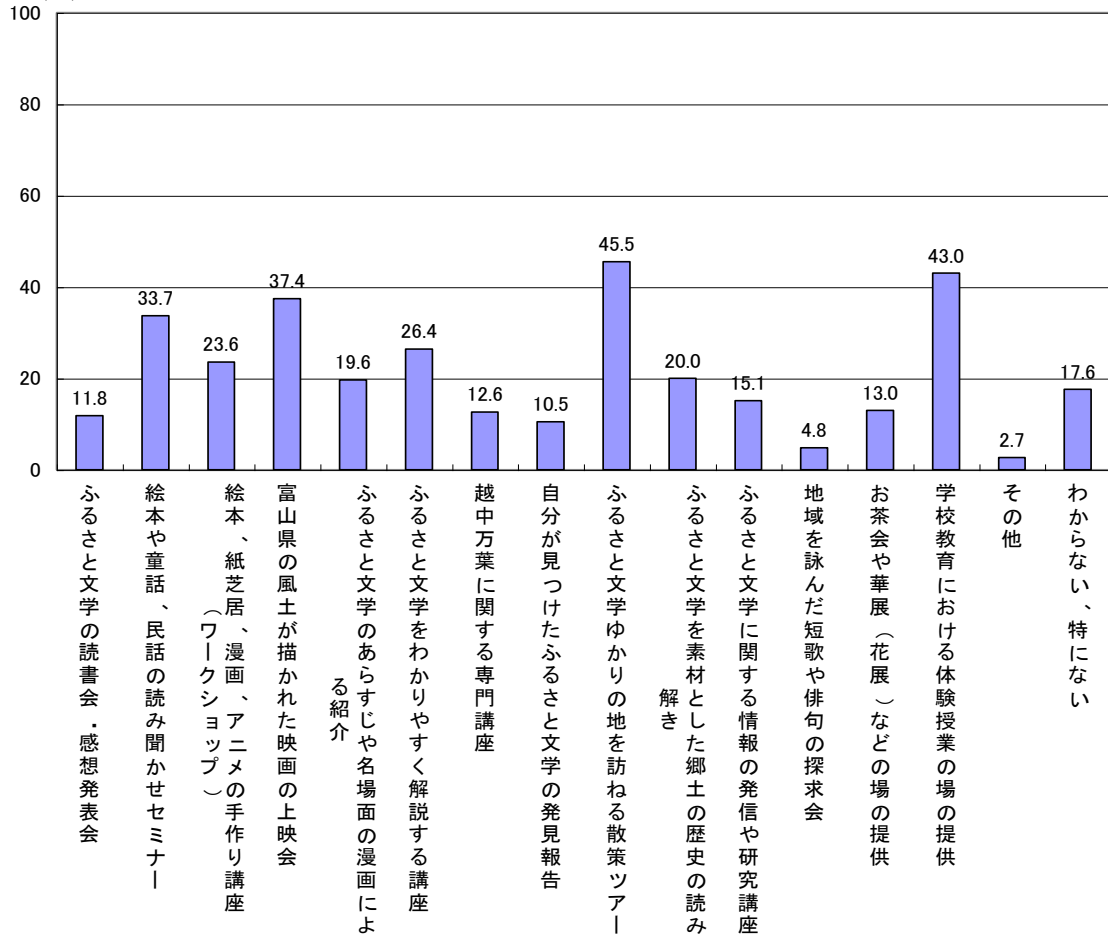


問 19(1) 富山県ふるさと文学館（仮称）＜※注＞で取り組めば良いと思う活動は何ですか。次の中から5つまで選んでください。

（※注 富山ゆかりの作家の作品や富山を舞台とした作品（絵本、映画、漫画、アニメなども含みます。）に親しみ学ぶことは、ふるさとへの愛着心や誇りの醸成につながることから、これらの貴重な文学資料を保管、継承し、紹介するために、県では、平成24年夏頃を目途に富山県ふるさと文学館（仮称）を開設するべく準備を進めています。）

富山県ふるさと文学館（仮称）で取り組めばよいと思う活動については、「ふるさと文学ゆかりの地を訪ねる散策ツアー」（45.5%）と回答した人の割合が最も高く、次に「学校教育における体験授業の場の提供」（43.0%）、「富山県の風土が描かれた映画の上映会」（37.4%）、「絵本や童話、民話の読み聞かせセミナー」（33.7%）、「ふるさと文学をわかりやすく解説する講座」（26.4%）の順となっている。

問 19(1) 富山県ふるさと文学館で取り組めば良いと思う活動 (%)



問 19(2) 「万葉集」の中で、国守として赴任した大伴家持が詠んだ歌を中心に越中（現在の富山県）で詠まれたり、越中に送り届けられた歌のことを「越中万葉」といいますが、これまでにあなたは「越中万葉」という言葉を耳にしたことがありますか。

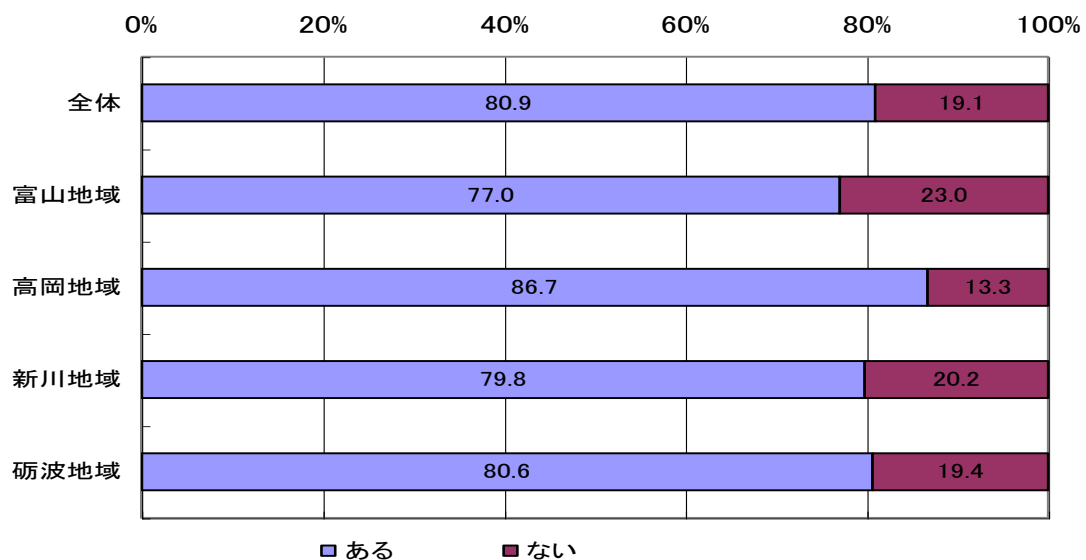
「越中万葉」という言葉を耳にしたことがあると答えた人の割合は、80.9%となっている。

なお、性別に見ると、「ある」と答えた人の割合は女性で少し高くなっている。（男性 78.3%、女性 83.0%）

年代別に見ると、「ある」と答えた人の割合が、最も高いのは男性では 60 歳代（85.5%）、女性では 70 歳以上（94.4%）となっている。また、「ない」と答えた人の割合が最も高いのは男女とも 20 歳代（男性 33.3%、女性 26.7%）となっている。

地域別に見ると、「ある」と答えた人の割合は、高岡地域（86.7%）で高くなっている。

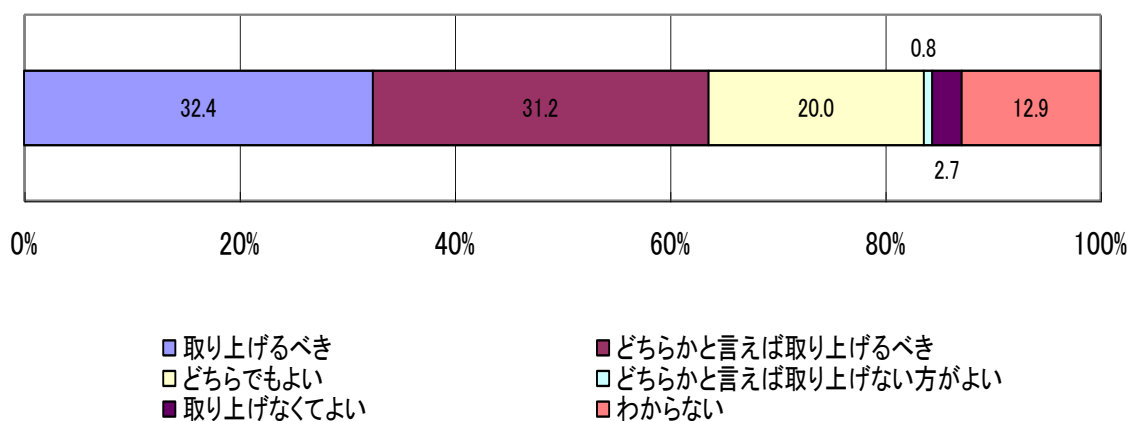
問 19（2） 地域別 「越中万葉」という言葉を聞いたことがある



問 19(3) 富山県ふるさと文学館（仮称）で「越中万葉」を取り上げた方がよいと思いますか。

「越中万葉」を取り上げた方がよいかたずねたところ、「取り上げるべき」（32.4%）と回答した人の割合が最も高く、次に「どちらかといえば取り上げるべき」（31.2%）、「どちらでもよい」（20.0%）、「どちらかと言えば取り上げない方がよい」（0.8%）、「取り上げなくてよい」（2.7%）、「わからない」（12.9%）の順となっており、「取り上げるべき」と答えた人の割合は63.7%、「取り上げなくてよい」と答えた人の割合は3.5%となっている。

問 19（3） 富山県ふるさと文学館（仮称）で「越中万葉」を取り上げたほうがよい



問 19(4) (3)で「ア 取り上げるべき。」または「イ どちらかと言えれば取り上げるべき。」と答えた方におたずねします。「越中万葉」についてどのような内容・方法で取り上げたらよいと考えますか。次の中からいくつでも選んでください。

「越中万葉」の取り上げ方について内容・方法をたずねたところ、「越中万葉に含まれる歌の解説」(66.8%)と回答した人の割合が最も高く、次に「富山県内の万葉集ゆかり(歌まくら)の場所・地域の紹介」(63.9%)、「越中万葉に登場または関係した人物の解説」(47.6%)、「越中万葉を解説した文献や資料の展示・公開」(39.6%)、「越中万葉の歌碑などが設置されている場所の紹介」(37.7%)、「越中万葉に歌われた花木などの解説」(28.4%)の順となっている。

問 19 (4)「越中万葉」の取り上げ方

